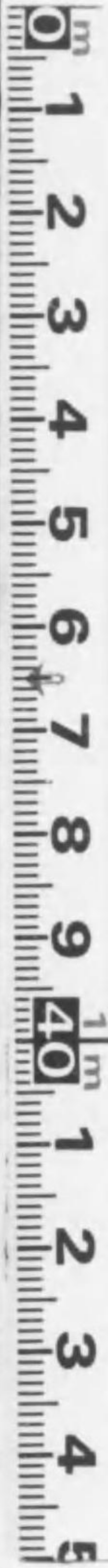


偶評  
今體名家文抄

土居



特34  
特34-190  
190  
\*1200800181987\*



始



問答  
起  
未

偶今體名家文抄卷之二

明治十年圖書局發行

土居光華編選

自由交易論 西村茂樹

自由交易論ハ何事ヲ論ズル自由交易ハ國ニ害

ハ小ヲ論ズルナリ何レハ國ニ害アル今日ハ我

日本帝國ニ害アルナリ凡ソ天下至妙ノ論ハ至

近ニ理ヲ離レズ若シ至近ノ理ヲ離ル者ハ必

ズ正論ニ非ズ父母ニ事ルニ孝ヲ盡スベキハ

至近ノ理ニシテ無學ノ野人モ能ク之ヲ知ル者

公豊古家文抄卷二

此邊行文双  
關法ヲ用ユ  
漢文公原毀  
篇ノ讀ム如  
シ

アリ。聖人起テ父母ニ事フルノ道ヲ論ズルモ。遂ニ孝ノ外ニ出ル能ハズ。國ヲ富スニ貨幣ハ濫出ヲ防グハ。至近ハ理ニシテ白面ハ書生モ能ク之ヲ言フ。智者起リテ經濟ハ道ヲ論ズルモ。遂ニ貨幣ハ濫出ヲ以テ是ナリトスルト能ハザルベシ。世ノ自由交易ヲ主張スル者ハ。大抵皆英國ノ自由交易ヲ行ヒテ。其國ノ富盛ナルヲ見テ。我國ニモ亦之ヲ行フベシト思ヘルナルベシ。夫レ英國ト我邦ト交易上ノ事ヲ比較スルニ。一モ相似タル者ナシ。英國ハ自ラ進ンデ交易ヲ開キ。學者ナ

リ。我國ハ米人ニ逼ラレ。止ムコトヲ得ズ。夫之ヲ開キシ者ナリ。英國ノ民ハ心計ニ長ジ。工作ニ巧ナリ。我國ノ民ハ心計ニ短ク。工作ニ拙シ。英國ハ土地開ケ盡シテ地ニ遺利ナク。人民勉強シテ人ニ遺カナシ。我國ハ荒蕪ノ土地アリテ。地ニ遺利アリ。人民怠惰ノ者アリテ。人ニ遺カ多シ。英國ノ自由交易ヲ開キシ時ハ。已レ獨リ工作商術ニ長シテ。他國ノ民皆之ニ拙シ。我國ノ自由交易ヲ開キシ時ハ。他國ノ民皆工作商術ニ長シテ。我國獨リ之ニ拙シ。此四者ヲ比シテ之ヲ考フレハ。我國

ハ自由交易ヲ行ハベカラザルハ。已ニ瞭然タル  
ベシ。英國ノ如キモ、其始ハメルカントルシステ  
ムトイヘル法アリテ、輸入品ニ重税ヲ課シ、輸出  
品ニ賞典ヲ與ヘ、以テ自國ノ工作ヲ勵マシ、貨幣  
ノ濫出ヲ防ギシナリ。一千七百年ノ末、アダムス  
ミスナル者出テ、初メテメルカントルシステム  
ノ非ヲ論ジ、自由交易ノ利ヲ説キ、遂ニ其國ノ交  
易法ヲ變ズルニ至リシナリ。然レモ余ヲ以テ之  
ヲ見レバ、英國ノ富ヲ致セシハ、其初ノルカント  
ルノ法アリテ、貨幣ノ濫出ヲ防ギ、自國ノ工業ヲ

活眼孟子曰  
地ヲ易ヘバ  
皆然リト

勵マセシ故ナルベシ。一千七百年ノ末ニ至リ、其  
國ノ工作繁盛ヲ極メ、地ニ遺利ナク、人ニ遺力ナ  
シ。是ニ於テ自由交易ノ法ヲ以テ、交易ノ範圍ヲ  
擴開シ、以テ今日ノ富盛ニ至リシ者ナルベシ。若  
シアダムスミスヲシテ、三四百年ハ前ニ生レシ  
ハ、余其必ス自由交易ノ説ヲ主張セザリシト、  
ヲ知ルナリ。亞米利加人ハ斷然トシテ、保護税法  
ヲ行ヒテ曰ク、他國ノ輸入貨ニ重税ヲ課スルハ  
自國ノ工作ヲ勵マスガ為ナリト。今我國ト米國  
ト交易上ノ事ヲ比較スルニ、他國ニ後レテ交易

一轉大ニ好  
シ商業工業  
ノ兩槍ヲ執  
テ左右衝突  
自由交易先  
生逃ル、所  
ナシ攻撃論  
文此ノ如キ

ヲ開キシモ相同シ。地ニ遺利アルモ相同シ。心計  
ニ長ズルハ。我民大ニ米人ニ及バズト雖氏。米人  
ノ工作ハ遙ニ歐人ノ下ニ在レバ。此事亦我國ト  
相類似ス。其異ナル者ハ自ラ開クト。逼リテ開カ  
ル、ノ一條ノミ。然ラハ則我國ハ交易法ハ四不  
同ハ英國ヲ學バンカ。一異三同ハ米國ヲ學バン  
カ。請フ、智者之ヲ度レ。然ニ前ニ言フ所ノ者ハ。特  
ニ理論上ノ得失ノミ。實驗上ノ得失ニ至テハ。更  
ニ之ヨリ甚シキ者アリ。其事ハ世人ハ普ク知ル  
所ニシテ。商業ヨリ之ヲ言ヘバ。一年七百餘萬

処ナケレバ  
讀者ノ心目  
ヲ醒スニ足  
ラカ

ハ損失アリ。工業ヨリ之ヲ言ヘハ。我國ハ心ハ他  
年其業ヲ失ハシハ恐レアリ。若シ食ヲ失フト。年  
々今日ハ如ク甚シク。民ハ工業ヲ為ス者殊ニ木  
綿砂糖鑊ノ類年ヲ逐テ減ズルキハ。民何ヲ以テ  
生活センヤ。國何ヲ以テ自立センヤ。實ニ積薪ハ  
上ニ坐スルハ損アリ。恐レテ懼レザルベケンヤ。

政府與人民異利害論 西村 茂 樹

凡ソ物ニハ合名アリ分名アリ。人ト云フハ合名  
ナリ。精神身体ト云フハ分名ナリ。國ト云フハ合  
名ナリ。政府人民ト云フハ分名ナリ。合名上ヨリ

精神身体ハ  
是客政府人  
民ハ是主主  
客錯綜限ナ  
キ變化限ナ  
キ出沒論文  
中ノ傑作

利害ノ二字  
通篇ノ脈絡

今體名家文抄卷二  
之ヲ視レバ。人モ一物ナリ。國モ一物ナリ。分名上  
ヨリ之ヲ見レバ。人モ二物ナリ。國モ二物ナリ。已  
ニ分レテ二物トナレバ。勢必ク其利害得失ヲ異  
ニセザルヲ得ズ。請フ其詳ヲ言ハシ。人ノ精ヲ  
竭シ。思ヲ勞シ。學問ヲ勵ミ。事業ヲ務メ。以テ賢人  
君子ト為リ。以テ功名富貴ヲ得ルハ。精神ノ利ナ  
リ。然レモ身体上ヨリ之ヲ言ヘバ。之ガ為ニ健康  
ヲ害シ。性命ヲ短クスル恐アレバ。之ヲ害ト云ハ  
ザルヲ得ズ。肢体ヲ運動シ。筋骨ヲ煉磨シ。思慮  
ヲ勞セズ。精神ヲ役セズ。以テ健康長壽ヲ保ツハ。

一折客ヨリ  
主ニ入ルル処  
文法觀ルベ  
シ亦然ノニ  
字幹旋カア  
リ

身体ノ利ナリ。然レモ精神上ヨリ之ヲ言ハバ。知  
識ヲ開カズ。道理ニ明カナラズ。終ニ愚痴蒙昧ノ  
人ト為ルノ恐アレバ。之ヲ害ト云ハザルヲ得  
ズ。夫レ一人ノ人身ナリ。合セテ之ヲ見レバ。固ヨリ  
一物ナレバ。利害ヲ分ツベキノ理ナシ。分ツテ之  
ヲ見レバ。其利害互ニ同ジカラズ。彼ノ利。即此ノ  
害ト為ル者ハ。豈奇ナラズヤ。國ノ如キモ亦然リ。  
威權隆赫。民望シテ之ヲ畏レ。令スレバ行ハレ。禁  
ズレバ止ミ。其為サント欲スル所ハ。國中敢テ之  
ニ抵牾スル者ナキハ。政府ノ利ナリ。然レモ人民

ヨリ之ヲ言ヘバ、之ガ為ニ束縛ニ罹リ、壓制ヲ受ケ、少シモ已ガ推理ヲ伸ズルヲ得ザレバ、之ヲ害ト云ハザルヲ得ズ。自由ヲ伸シ、羈絆ヲ脱シ、租税ハ吾之ヲ増減スベシ。官吏ハ吾之ヲ進退スベシ。是人民ノ利ナリ。然レモ政府ヨリ之ヲ言ヘバ、政府ノ權ヲ殺キ、人主ノ威ヲ減ジ、事ヲ為スニ常ニ掣肘矛盾ノ患アレハ、之ヲ害ト云ハザルヲ得ザルナリ。夫レ人民ハ租税ヲ出ス者ナリ。政府ハ租税ヲ收ムル者ナリ。租税ヲ出ス者ノ利ハ少キニ在リ。租税ヲ收ムル者ノ利ハ多キニ在リ。

比喩ハ切近ニシテ解シ易ク、悟リ易キ者ヲ善トス。蘇長公最モ此妙ヲ得タリ。此文殆ント之ニ近シ

獨リ暴政府租税ノ多キヲ利スルノミナリ。政府ト雖モ、租税ノ多キハ、決シテ之ヲ厭フナカルベシ。獨リ情民ノ租税ノ少キヲ利スルノミナラズ、良民ト雖モ、租税ノ少キハ、決シテ之ヲ厭フニ非ルナリ。譬ヘバ、金ヲ借ル者ト貸ス者トハ、如シ金ヲ借ル者ハ、利足ハ低キニ利アリ、金ヲ貸ス者ハ、利息ハ高キニ利アリ。厚德ハ人ト雖モ、金ヲ借ルニ利息ハ高キヲ欲シ、金ヲ貸スニ利息ハ低キヲ欲スルハ、未ダ之ヲ得ザルナリ。又物ヲ賣買スルガ如シ、賣ル者ハ、價ハ貴キヲ欲シ、買ル者

噫々實物ヲ  
論セズ徐々  
比喩ヲ翻弄  
シ義理自ラ  
明晰ナラシ  
ム文字ノ學  
ニ深キ者ニ  
非ザレバ能  
ハザルナリ

三カ字ヲ以  
テ疑案ヲ起  
シ後段公利  
私利ノ論ヲ

生ズ只其文  
章ノ妙ノミ  
ナラス道理  
頗ル穩當此  
一段アリ始  
テ先生老練  
ノ人タルヲ  
知ル公私二  
字是此篇ノ  
目的

ハ價ハ賤シキヲ欲ス。君子者ト雖、臣、物ヲ買フニ  
價ハ貴キヲ欲シ。物ヲ賣ルニ價ハ賤キヲ欲スル  
ハ未ダ之レハアラザルナリ。是ニ由テ觀レバ仁政  
ヲ行ヒ、稅斂ヲ薄クスルヲ以テ政府ニ望ムハ猶  
金ヲ貸ス者ニ利息ハ低キヲ望ミ、物ヲ賣ル者ニ  
價ハ賤キヲ望ムガ如ク、到底貸ス者賣ル者ハ利  
ニ非ザレバ、自然ヲ以テ之ヲ得ベキニ非ズ。是古  
ヨリ仁政ヲ行フ者常ニ少クシテ、暴政ヲ行フ者  
常ニ多キ所以ナリ。然ラバ政府ト云フ者ハ、自然  
ニ任セ置ク時ハ、決シテ仁政ヲ行ハザル者ナリ

仁政ノ行ハザル者ナリ

カ。人民若シ己ノ推理ヲ得ント欲セバ、己ガ力  
以テ強テ之ヲ奪フベキ者ナルカ。租稅ヲ輕クセ  
ント欲セバ、勢ヲ以テ政府ヲ脅カシ、而シテ後始  
テ其望ヲ達スベキ者ナルカ。凡ソ天下ノ事ハ、公  
利アリ、私利アリ。己ガ一身ヲ利シテ、兼テ他人ヲ  
利スル者ヲ公利ト云ヒ、己ガ一身ヲ利シテ、他人  
ノ不利ヲ顧ミザル者ヲ私利ト云フ。交際ハ人類  
ノ為サザルベカラザルノ道ナリ。己ニ交際ヲ為  
ス時ハ、一人ノ私利ヲ求メテ、衆人ノ公利ヲ害ス  
ベカラズ。故ニ金ヲ貸ス者モ、亦借ル者ハ利ヲ思

仁政ノ行ハザル者ナリ



此等ノ処是  
余カ評スル  
所ノ主客錯  
綜限リナキ  
衰化限リナキ  
出沒ノ所ナリ

ハベク。物ヲ賣ル者モ亦買フ者ハ利ヲ思フベシ。  
若シ然ラズシテ。己ガ私利ヲ營ミ。而シテ人ノ公  
利ヲ害スル時ハ。其私利ナル者モ亦遂ニ己ガ利  
ト為ルコト得ズ。却テ私損ト為ルニ至ルベシ。夫  
レ我身ト他人トハ。本ヨリ判然トシテ二物ナレ  
バ。我ノ利ハ敢テ他人ノ利ニ非ルニ似タリ。然レ  
氏單ニ我身ヲ利シテ。他人ノ不利ヲ顧ミザル時  
ハ。亦翻テ我身ノ不利ヲ来スニ至ル。國ノ如キハ。  
是ニ異リ。之ヲ分テバ政府人民ノ別アリト雖モ。  
原来團圓ナル一物ニシテ。恰モ精神ト身体ト合

前ニ言フ所ハ  
私利今言フ  
所ハ公利公  
私ヲ問ハズ  
只利害ヲ見  
ル是古今徒  
戰徒乱ノ多  
キ所以ナリ  
噫

シテ一ハ人ト為ルニ同シ。己ニ團圓ナル一物ト  
ル時ハ。政府ハ利ハ。即人民ハ利ニシテ。人民ハ不  
利ハ。即政府ハ不利ナリ。譬ヘバ精神ハ衰弱ハ。身  
体ハ不利ニシテ。身体ハ疲勞ハ。亦精神ハ不利ナ  
ルガ如シ。今言フ所ノ如クナレバ。前ニ述ル所ノ  
政府ノ利不利。人民ノ利不利ノ説ハ。全ク非ナル  
カ。曰ク非ナラザルナリ。私利ヲ以テ之ヲ論ズル  
時ハ前ニ述ル所ノ如シ。公利ヲ以テ之ヲ論ズル  
時ハ今言フ所ノ如シ。國ノ公利ナル者ハ如何ニ  
富ナリ。強ナリ。治安ナリ。榮譽ナリ。政府モ之ヲ以

テ目的トナサズ。此ベカラズ。人民モ之ヲ以テ目的ト為サザルベカラズ。威權ヲ專ニシ。賦斂ヲ厚クスルハ。政府ノ利ナリト雖。民之ヲ行ヒテ富強治安榮譽ノ害トナラバ。政府宜ク己ノ欲ニ克チ。其私利ヲ抑ヘテ。之ヲ行フナカルベシ。民推ヲ伸シ。租税ヲ減スルハ。人民ノ利ナリト雖。民之ヲ行ヒテ富強治安榮譽ノ害ト為ラバ。人民宜ク己ノ欲ニ克チ。其私利ヲ抑ヘテ。之ヲ行フナカルベシ。此ハ如クナル時ハ。上下共ニ其利ヲ同クシ。政府人民ヲ凌虐スルハ。患ナク。人民政府ニ背叛

スルハ。虞ナク。全國カヲ合セテ。富強治安榮譽ハ。地ニ進ムベシ。然ニ半化ノ國ニ於テハ。政府ハ威權常ニ重ク。人材常ニ多シ。人民ハ之ニ及ス。政府ノ力ハ。常ニ八九分ノ重キヲ得テ。人民ノ力ハ。常ニ一二分ノ重キニ過ギズ。故ニ國力ノ平均ヲ得ントスルニ。政府モ五歩ヲ退ケ。人民モ五分ヲ退クルト云フニテハ。真ニ國力ノ平均ヲ得ル能ハズ。必ズヤ政府二三歩ヲ退ケ。人民八九歩ヲ進メテ。初テ平均ヲ得ルニ至ルベシ。是有志者ノ民推ヲ主張シ。反復論說シテ止マザル所以ナリ。

此篇文章上ヨリ之ヲ云ハ政府人民ノ四字ハ是主精神身体ノ四字ハ是客ナレバ議論上ヨリ之ヲ云ハ人民ノ字是主ニシテ政府ハ是客精神身体ハ客ト知ルベシ故ニ結句曰ク懋ノヨヤ云々ト云々政府

夫民権ハ人民固有ノ至寶ニシテ政府ノ與フルヲ待ツベキ者ニ非ルナリ。近日ノ状ヲ見ルニ政府固ヨリ已ニ國ノ公利ヲ知ルガ如シ。能ク公利ヲ知レバ、民ト私利ヲ争ハザルヤ必セリ。人民若シ奮ツテ民権ヲ取り、以テ國力ノ平均ヲ調整セントセバ、政府斷ジテ之ヲ拒ムノ理ナシ。或ハ喜テ之ヲ允許スルモ亦知ルベカラザルナリ。若シ人民タル者漫然政府ニ倚賴シ、以テ政府ノ民権ヲ賜フヲ待ツハ、譬へバ黄河ハ清ムヲ待ツガ如ク、遂ニ之ニ逢フハ期ナカルベシ。懋ノヨヤ民権

ニ及ズ是文法捌脱輕重ヲ成シ主客ヲ分ツ所以ナリ

一篇主意

家懋ノヨヤ人民

自主ノ権ハ自主ノ志行ヨリ起ル論

原漢文

中村正直

論ニ曰ク、國自主ノ権アル所以ノ者ハ、人民自主ノ権アルニ由ル。人民自主ノ権アル所以ノ者ハ、其自主ノ志行アルニ由ル。今夫レ二三十家ノ民相團スレバ、則村ト曰フ。數村相聯スレバ、則縣ト曰フ。數縣相會スレバ、則郡ト曰フ。數郡相合スレバ、則國ト曰フ。故ニ某ハ村風俗純實ト曰フガ如キハ、則某村人民ハ言行純實ナル者之ヲ為スナ

國民ニ致ナ  
シ之ヲ主意  
洗發ノ法  
云フ

試ニ云々洗發  
一層

ハ其ハ縣多ク貨物ヲ出スト曰フハ則其縣人民  
ハ農ヲカメテ工ヲ勤ムル者之ヲ為スナリ。其ハ  
郡藝文蔚興スト曰フハ則其ハ郡人民ハ學ヲ嗜  
ミ藝ヲ講スル者之ヲ為スナリ。其ハ國福祚昌盛  
ト曰フハ則其ハ國人民ハ志行端良克ク天心ニ  
合フ者之ヲ為スナリ。蓋シ總稱シテ國ト曰ヒ分  
言シテ民ト曰フ。始ヨリニ致ナキナリ。試ニ輿地  
圖ヲ掲ケテ之ヲ觀ヨ。自主ノ國幾何ゾ。半主ノ國  
幾何ゾ。羈屬ノ國幾何ゾ。印度ノ如キハ古ハ自主  
ノ國ナリ。今ハ則悉ク英ニ統ラル。安南古ハ自主

且云々洗發  
二層

ノ國タリ。今ハ則半ハ法ニ屬ス。南洋中ノ諸國ノ  
如キ。今西國ノ屬ト為ラサル者莫シ。人或ハ祇謂  
ラク。西國英君哲輔アリ。故ニ勢威遠方ニ加フト。  
殊ニ西國ノ民勤勉忍耐。自主ノ志行アリ。暴君汚  
吏ノ羈制ヲ受ケズ。故ニ邦國ノ景象駸々トシテ。  
日ニ上ル。蓋然ルヲ期セズシテ。然ル者アルヲ知  
ラズ。且ツ獨リ此レノミナラザル也。西國ノ君大  
ニ其智ヲ用ウレバ。則其國大ニ亂レ。小シク其ノ  
智ヲ用ウレバ。則其國小シク乱ル。載テ史冊ニ在  
リ。歴々トシテ徵ス可シ。方今西國ノ君己レノ意

蓋云々洗發  
三層

ヲ以テ輒ク一令ヲ出スヲ得ズ。己レノ命ヲ以テ  
輒ク一人ヲ囚繫スルヲ得ズ。財賦ノ數、民ニ由リ  
之ヲ定ム。軍國ノ大事、民人ノ公許ニ非レハ舉行  
スルヲ得ズ。蓋シ西國ノ君、譬へハ、則御者ナリ。民  
人ハ譬へハ、則車ニ乗ル者ナリ。其當ニ何レノ方  
ニ向ツテ發スベキ、當ニ何レノ路ニ由リテ進ム  
ベキ、固ヨリ車ニ乗ル者ノ意ナリ。御者ハ其意ニ  
從ヒ、控御ノ術ヲ施スニ過サル耳。故ニ君主ノ權  
ハ其私有ニ非サルナリ。闔國民人ノ權、其身ニ萃  
マル者は是レノミ。唯然リ、故ニ君主ノ令スル所ノ

余尚云々ヨリ  
豈謬ラヤニ  
至ル一段文  
章終局ノ法  
ニシテ論意ハ  
直ニ余又、段  
ニ接ス者著  
文字ノ多キニ  
眩迷セラレ  
論意ノアル處  
ヲ誤認スル  
ナカレ

者ハ、國人ノ行ハシト欲スル所ナリ。君主ノ禁ズ  
ル所ノ者ハ、國人ノ行フヲ欲セザル所ナリ。君民  
一體上下情ヲ同クシ、朝野好ヲ共ニシ、公私別無  
ク。國ハ昌盛ナル所以ハ者、其レ此ニ由ラザラン  
ヤ。余尚ホ記ス、童子ノ時、清英兵ヲ交へ、英屢大ニ  
捷チ、其國ニ女王維多利亞ト曰フ有リト聞キ、則  
驚テ曰、眇乎タル嶋嶽、女豪傑ヲ出ス。乃チ爾リ、堂  
々タル滿清反テ一箇モ是レ男兒ナル無キヤト。  
後海國圖志ヲ讀ム、謂フアリ曰ク、英ノ俗、貪ニシ  
テ悍奢ヲ尚トヒ、酒ヲ嗜ム、惟技藝靈巧ト、當時謂

テ信然トナス。前年英都ニ遊ヒ留ルニ載。徐ク其  
政俗ヲ察スルニ及ヒ、以テ其然ラザルヲ知ルア  
リ。今ノ女王、尋常老婆、飴ヲ含ンテ孫ヲ弄スルニ  
過ギザルノミ。而シテ百姓ノ議會最モ重シ。諸侯  
議會之ニ亞ク、其衆ニ掄バレ、民委官ト為ル者ハ、  
必ズ學明ニ、行ヒ修マレルノ人ナリ。天ヲ敬シ人  
ヲ愛スルノ心アル者ナリ。己ニ克チ獨ヲ慎ムノ  
工夫アル者ナリ。多ク世故ヲ更ヘ艱難ニ長ズル  
ノ人ナリ。而シテ權詐猥薄ノ徒與カラズ。神ヲ慢  
リ心ヲ欺クノ人與カラズ。酒色貨利ノ徒與カラ

ズ。功ヲ喜ビ事ヲ生ズルノ人與カラズ。其俗ハ則  
上帝ニ事ヘ禮拜ヲ尊ビ、持經ヲ尚ビ、好テ貧病者  
ヲ賙濟ス。國中設クル所、仁善ノ規法、殫述スルニ  
遑アラズ。姑ク其一ヲ舉ル。貧家ノ子女、往テ學ブ  
所ノ學院、通計三萬有餘所、學徒二百萬人。晝間職  
務アル者、往テ學ブ所ノ學院、夕學院ト名クル者、  
二千有餘所、學徒八萬人。凡テ此レ民人公同銀ヲ  
捐テ而シテ設クル者ニ係リ。官府與カラズ。凡百  
ノ事、官府ノ為ス所、十二其一ニ居リ。人民ノ為ス  
所、十二其九ニ居ル。然リ而シテ其所謂官府ナル

抑云々  
豈云々  
然云々  
用法皆宜シ

者亦唯民人ノ利便ノ為ニシテ設ル會所耳。權勢  
ヲ貪リ威刑ヲ擅ニスル如キノ事有ル母キナリ。  
抑モ通國ノ廣キ、人民ノ多キヲ以テ、豈嘉究不法  
ノ徒無カラサランヤ。然ニ其大體ヲ審ニスレバ、  
則稱シテ政教風俗美ヲ西方ニ擅ニスト曰モ可  
ナリ。而シテ魏氏ノ書、徒ニ其貪悍奢ヲ尚ヒ、酒ヲ  
嗜マシ稱ス。是レ蓋シ西國無賴ノ徒、東洋ニ居ル  
者ヲ見テ、之ヲ概言スル耳。何ソ其謬レルヤ。余又  
近コロ西國古今僑傑ノ傳記ヲ讀ミ、其皆自主自  
主。以志アリ、艱難辛苦ノ行アリ、天ヲ敬シ人ヲ愛

此一設餘波  
ノ如シ然ニ其  
實上ノ西國  
君摩ハバ御  
者ナリノ比  
ヲ復用シ自  
文章收束ノ  
地ヲ成サント  
欲スルナリ老  
練手筆ト云  
ヘシ

スルノ誠意ニ原キ、以テ能ク世ヲ濟ヒ民ヲ利ス  
ルノ大業ヲ立ルヲ觀テ、益以テ彼ノ土、文教昌明、  
名四海ニ揚ガル者、實ニ其國人勤勉忍耐ノ力ニ  
由テ其君主得テ與カラザルヲ知ルアルナリ。嘗  
テ聞ク、善馬車ニ駕スル者アリ、鞭策ヲ加ヘスシ  
テ自ラ能ク行キ、控御ヲ待カズシテ自ラ能ク馳  
ス。御者妄ニ繩繩ヲ引キ、多ク撻責ヲ加フルニ及  
ンテ、其馬扞格抵牾頓ニ行ク、不能ハザルヲ致ス。  
ト、嗚呼、坤輿ハ内、何ハ國カ善ナラザラン。何ハ民  
カ良トラザラン。御者ノ功ヲ喜ビ、事ヲ滋クスル

賞罰毀譽論  
是非賞罰毀  
 譽顧ミルニ  
 足ラザル論ナリ  
 取題格ト稱  
 スベシ

ニ由テ其性ヲ遂ス。其天良ヲ存スル能ハザルヲ  
 致ス者蓋シ亦多哉。

賞罰毀譽論 中村正直

賞罰ヲ以テ榮辱トナシ。毀譽ヲ以テ喜怒ヲ為ス  
 ハ、人情物理ノ當然トスル所ナリ。王法ハ賞罰ア  
 リ。時論ハ毀譽アルニ由リ。衆人ノ善ニ勸之、惡ニ  
 懲ル、心益深クナルヲナレバ、此二者ノ世道人  
 心ノ為ニ裨益トナルヲハ、固ヨリ言ヲ待ズ。此外  
 眞神  
ノ賞罰アリテ、人心幽眇ノ地マテ達シ、洞鑒遺ス  
 ナク、最トモ望ムベク、最トモ懼ルベキモノアレ  
 非レ、今日論スル所ノ主意ニ但シ王法ハ賞罰時ト

シテ愛憎ニ迷ヒ公平ヲ失錯スルヲアリ。時論ノ  
 毀譽或ハ見聞ニ溺レ、是非ヲ顛倒スルヲアリ。故  
 ニ東西古今ノ史ヲ歴觀スルニ、今日ヨリハ大人  
 豪傑ト稱セラル、モノ、其當時ニ在テハ、唯爵勲  
 賞典ヲ得ザルノミナラズ、往々惡名ヲ負ヒ、罪人  
 トナリ。囚獄ニ投セラレ、刑戮ニ處セラレ、或ハ王  
 法ノ罰責ヲ免カル、モ、時論ニ忌ミ嫌ハレ、一生  
 身ヲ容ル、所ナク、流離窮厄ニシテ、世ヲ没スル  
 類枚舉スルニ遑アラズ。是ヲ以テ之ヲ觀ルトキ  
 ハ、王法ノ賞罰及ヒ時論ノ毀譽ハ中人以上ノ勸



懲トナスベク。第一流ノ人即チ大人豪傑ノ輕重  
ヲ為スニ足ラザルナリ。蓋シ大人豪傑ハ其學問  
識見遙ニ尋常庸衆ノ上ニ超エ。風俗慣習ノ範圍  
ヲ脱ス。故ニ其是非スル所。其可否スル者。自カラ  
從前ノ論ト。氷炭相反シ。世人ニ疑ヒ怪シマレ。甚  
シキハ窘逐殺戮セララル。ニ至ル。然レ氏時代ノ  
久シキヲ經ルニ從ヒ。大人ノ名ハ益顯ハレ。其識  
見議論天下ニ行ハレ。世ノ有シ限リ朽ルナカ  
ル可シ。之ニ反シテ是等ノ人ヲ疑怪シ。窘逐スル  
人ハ。國王ニモセヨ。宰臣ニモセヨ。一時平民ノ大

勢カアルモノニモセヨ。其名烟消シテ霧散ス。其  
偶傳ハル者モ。其臭名聞ク者鼻ヲ掩フ。西人。是ヲ  
時。代。ノ。復。讎。ト云フ。古キ話ニテ。誰モ知ルナレ  
氏。孔子ハ木ヲ宋ニ伐ラレ。陳蔡ノ間ニ圍マレ。四  
方ニ周游シ。席煖ナルニ。暇アラズトイハル。程  
ナリ。今日ニ至リテコソ。朱文公ト學者ニ欽仰セ  
ラル。氏。其當時ニ在テ。偽學ヲ以テ目セララル。蘇  
東坡ノ如キ。其詩文後世ニ重ンセラル。モ。元祐  
姦黨ノ一人ナリ。黨藉研ハ蔡京之ヲ建テ。星變ヲ  
以テ毀チシガ。其後黨人ノ子孫ハ。更ニ之ヲ榮ト

ナシ、重ネテ之ヲ摹刺セシトイヘリ。王法ノ賞罰。公平ヲ失ヒ、時論ノ毀譽是非ヲ誤マルトキハ、姦黨碑ニ名ヲ載ラル、モ、辱ナラズシテ榮トナリ。若シ姦黨碑ヲ以テ榮トスル時ハ、勲等牌ヲ以テ苟シクモ偏愛濫辱トナサザルヲ保スルヲ能ハ賞ハ萬人ノ生ヲ殘シテ、封候ノ榮ヲ得ルモノアリ、百世ノ利ヲ遺テ、刑死ノ慘ヲ受ルモノアリ。是等ニ至リテハ、人間ノ賞罰、毀譽ト、天道ノ賞罰、可否ト、ハ、互ニ相悖反スルモハト思ハル、ナリ。西國ニテモ新教ヲ弘ムル魁首ナル、路陽ハ匹夫ヲ以

テ羅馬法王ニ抗シ、百般ノ危難ヲ冒シ、生命ヲ危クシ、遂ニ今日ニ至リ、其榮名盛譽ハ國王宰臣之ヲ羨ンデ、得ザルホドナルモ、其生時ハ時計ヲ掃除シ、或ハ園丁ノ事ヲ為シ、其生ヲ營ナミシトアリト、日耳曼今日人民ノ品行ハ、路陽ノ作レルモノニシテ國王ノ為セシニハ非ストモイヘリ。此ノ如キ大豪傑ハ、豈國王ノ賞典ニ由テ、其光ヲ發揚スルモノナランヤ、保羅ノ如キモ、西教ノ行ナハル、諸國ニテハ、之ヲ尊崇シ、其書ヲ奉ジテ經典ニ比ス、然ルニ其生時ハ、幕ヲ作ルヲ以テ職業

トシ。始ハ西教ヲ窮逐シ、既ニシテ信徒トナリ、之ガ為ニ刑戮ヲ蒙ムリシナリ。此ノ如キ非常ノ人ハ、豈王法ノ刑罰ニ由テ、其道ハ行ハルヲ防キ過ハルヲ得ベケンヤ。然レ氏新ハ法ヲ舊ニ取り、今ハ事ヲ古ニ鑑ミル、聖賢ヲ殺スガ如キ、大差謬ハ後世ニ見エザレ氏、新法ヲ創メ、新器ヲ製シ、及ビ新説ヲ唱フル者ヲ毀リ辱カシメシ話説ハ、吾ガ譯述セシ立志編ニモ多ク見エタリ、要シテ之ヲ言シニ、大抵教法、脩身、經濟、格致、醫療等諸學ニ於テ、今日有形無形ノ大利益大惠澤トナレル者

此処嗚咽流涕嘆息ノ聲ヲ聞カシト嗚呼ノ字濤傳尤悲慟

ハ、必ズ之ヲ首唱スル人アリ、其之ヲ首唱スルノ時ニ當ツテハ、或ハ國王ニ抗シ、一世ノ敵ニ受ケ、或ハ衆人ニ毀ラレ、顛狂トモ、癡愚トモ、山師トモ、姦放黷ナル名ヲ付ラレタル者ナリ、又獨自一己ハ信シ、千辛万苦ヲ忍ビ、人間ハ賞罰、衆人ハ毀譽ヲ馬耳東風ニ付シタル人ナリ、嗚呼時俗ハ論ホト時ムニ足ラザ者ハナシ、眼前ハ賞ホド墓ナキ者ハナシ、世ノ子弟及ヒ年少ノ人ニ告グ、勉テ大志ヲ立テ、各其才ノ近キ所ニ從ヒ、一學科、一藝術ニ專心勉強シ、時俗ノ毀譽ヲ顧リエズ、自己ノ品

行ヲ砥礪シ、一世ヲ裨益スル人トナルヲ期スベシ。果テ然ラバ或ハ一世ヨリ許可セラレテ、勲等ノ牌、鈕環綬ヲ禮服ノ上ニ著得ラルベシ。若シ又王法ノ賞ニ漏ル、氏、後世ニ至リ更ニ是ニ増シタル尊榮ヲ受得ラルベシ。數日前ニ勲等牌ノ詔アリ、一世ヲ勸勉スルノ具トナル勿論ナリ。但シ人民タル者ハ、若シ王法時論ノ外ニ賞罰毀譽アラズト思ヒ、世末ノ賞罰ト云フモ知ラズ、身後ノ榮名ト云フモ知ラズ。特ニ目前ノ賞生前ノ事ニ著意シ、是人ノミヲ無上人ノ賞典ナリト思フ時

真君子ノ語千載ノ下其人ヲ想見シ景仰止マザラシム

直説主意ハ是一格然ルニ

ハ。抑モ末ナリ。世ニ窮簷陋屋ノ中ニアリテ。襤褸ヲ着ケ。糟糠ヲ食ヒ。一己ヲ儉節ニシテ他人ヲ利益シ。職業ヲ勉テ邦國ヲ富足ナラシムル人アルベシ。王法ノ賞ノ及ブ所ニ非ズト雖。天皇ノ褒賞必ズ疑アルベカラザル。努力セザルベカラズ。英國名士ノ語ニ、職分ヲ盡シ、良心ニ負カサル。ハ、中夜ノ樂聲ナリト。蓋シ人タル者其行為必ズ先ツ自己ノ良心ヨリ賞許ヲ得ベキナリ。

愛敵論

西ノ周

爾ニ敵スル者ハ之ヲ愛ヒヨ。此一訣、遽ニ之ヲ見

是古語ニシテ  
此人造語ニ  
非カバ此一決  
云々以下此語  
ノ註脚ト云モ  
可ナリ

第一節

レバ驚クベキガ如ク。怪シムベキガ如シ。然ニ深  
ク其旨ヲ究ムレバ。上帝純善至仁ノ徳。此中ニ包  
含シ。又遺漏ナシ。人苟モ上天ノ意ヲ體セント欲  
スル者。之ヲ以テ道德至極至高ノ則トスベシ。請  
フ嘗ヒ之ヲ論ゼン。孔子云ク徳ヲ以テ徳ニ報ジ。  
直ニ以テ怨ニ報ズ。是平常身ヲ持スルノ通則。之  
ニ準シテ身ヲ律スル亦不可ナルナシ。蓋シ人己  
カ權ヲ侵ス時ハ。己其權ヲ復セントヲ求ムルハ。  
固ヨリ理ノ常ニシテ。好惡愛憎ノ依テ以テ起ル  
ハ。人心ノ性然ラシムル者ナリ。然ニ心ノ本體ハ

愉快爽快ヲ常トシ。愁苦鬱悶ヲ變トス。故ニ人ノ  
人ニ遇シ。物ニ處スル。亦皆理ノ在ル所ニ順ニシ  
テ。和煦平温ナルベク。必ズ悖戾暴悍ヲ常トス可  
ラス。況ヤ人ハ既ニ肉體ノ生ニ於テ為群ノ性ヲ  
有スルニ於テヤ。故ニ人ニ遇スル。必ズ愛ノ性  
ヲ有セザル者莫シ。故ニ好愛ハ心ノ全體ニシテ。  
惡憎ハ事ノ變ニ發スル者ナリ。今酌例ニ據テ之  
ヲ明サバ。天ノ大風アリ。大雨アリ。陰暄アルガ如  
シ。是素ヨリ理ノ然ラザルヲ得ザルニ出テ。其用  
亦必ズ欠ク可ラザル者ナリト雖。比。霽朗開明ナ

第二節

ルハ其常ナルガ如シ。故ニ人心ノ物ニ接スル。愛好ヲ常トシ。惡憎ヲ變トス。故ニ敵ニ遇スルモ其常ヲ以テシ。其變ヲ以テス。可ラサル是一理ナリ。然ニ又今一段之ヲ詳明スレハ。此敵スル者ト云フ字ヲ見ルベシ。所謂敵スル者ハ。我ト同體ノ者ナリ。故ニ其我ニ敵スルノ事ハ。惡ムベシト雖凡其同體タル所ニ於テハ之ヲ愛セザル可ラザルナリ。所謂君子ハ其罪ヲ惡シテ其人ヲ惡マス。故ニ惡ム者。唯其事ニ止ルベクシテ。其全體ヲ舉テ之ヲ惡ム可ラザルナリ。故ニ公法交戦ノ條規ノ

第三節

如キ。我狄殄滅ヲ以テ。戦ノ目的トシ。生擒ヲ殺シ。降虜ヲ殺シ。毒箭ヲ用弁詭計ヲ行フガ如キハ。文明諸國既ニ之ヲ取ラズ。唯敵力ヲ挫折シテ止ム者是ナリ。今時西洋諸國死刑ヲ廢スルノ論アリ。往々之ヲ典刑ニ載スルノ國アリ。或ハ然ラザルモ。之ヲ滅スルハ比々皆然リ。蓋シ人本同體ノ人ヲ殺スノ權ナシ。苟モ其惡ヲナス所以ノ者ヲ扭捏スル亦可ナルノミ是一理ナリ。然ニ又今一段之ヲ詳明スレバ。此敵スル者ト云フ字ヲ見ルベシ。所謂敵スル者ハ。我ト匹敵タル者ナリ。我既ニ

彼ト匹敵タリト思フ。是自ラ小ニスルナリ。苟モ我彼ニ駕シテ上ル一層タレバ。我必ズ彼ノ我ニ敵スル所以ノ在ル有ルヲ察シテ以テ彼ノ卑下ナルヲ憐マントス。是之ヲ日常體驗ノ際ニ徴シテ。人々能ク自ラ知ル者ナリ。父母ハ惡子ニ於ルガ如シ。君子ハ小人ニ於ルガ如シ。己ハ既ニ其匹敵ニ非レバ。彼ハ憤然我ニ抗スル者。我則チ夷然之ヲ受ク。犯セドモ。校セズ。回也。ソレ度幾シカ。且見ヨ尋常市井ノ間。任俠自ラ喜ブ者ハ如キ。又必ス屑々瑣々其從類ト。錙銖ヲ較セズ。而シテ怨恨

第四節

憤慍ノ現象ハ。多ク婦人ト小人トニアルヲヤ。是一理ナリ。然ニ又今一段之ヲ詳明スレバ。此敵スル者ト云フ字ヲ見ルベシ。所謂敵ス者ハ。我ト關係尤深キ者ナリ。今秦人ノ越人ニ於ケル。豪斯多羅利人ノ西伯人ニ於ケル如キ。之ヲ敵トシ。之ヲ惡マント欲スルモ。亦由ナキノミ。而シテ英佛ノ相惡ム。同ク一方ニ雄視スルヲ以テナリ。英米蘭白ノ相惡ムハ。本ヲ同クシテ末分レバナリ。此外是葡相惡ミ。瑞陣相惡ム。皆是ナリ。乃チ兄弟財ヲ争フテ相惡ミ。同官權ヲ争フテ相惡ミ。同學理ヲ

相惡ノ字重復姿ヲ取り聯下勢ヲ成ス文勢破竹ノ

如シ此文此處  
絶佳ト云ベシ

護羅爾ハ修  
身學ヲ云ヒ  
波里埜加ハ政  
事學ヲ云フニ

争ハテ相惡ミ。同僚事ヲ争ハテ相惡ミ。同賈利ヲ  
争ハテ相惡ム。是皆其元始ニ反リ。其關係ヲ考フ  
レバ。親密ナラザル可ラザル者ナリ。故ニ我之ヲ  
愛スルハ關係ナケレバ。亦之ヲ惡ムハ緣由ナシ。  
是レ惡ム者ハ愛スベキハ緣由アル者ナリ。人誠  
ニ此一訣ヲ以テ人ニ接スルハ要トナス。刻下既  
ニ已ニ大人君子襟懷洒落片雲ハ上ニ飄然タル  
ヲ覺フ。吾儕豈勉焉。カキ爰ニ用井ナルヲ得ハヤ。  
唯此言即護羅爾ノ要訣ニシテ。波里埜加上律法  
ノ由ル所ニ非ズ。蓋シ二ノ者並行レテ相戾ラザ

ル者ナリ。學者夫レ混視スル勿レ

内地旅行論

津田真道

内地旅行論  
余津田先生ニ  
左擔ニ云福沢  
先生ニ服セズ  
自由交易論  
即保護稅說  
余西村先生ニ  
左擔ニ津田  
先生ニ服セズ  
然ニ津田先生  
論服ス者若  
多シ拷問論  
死刑論出版  
自由論等皆  
余ノ服スル所也  
而シテ此選全

外國條約改正ノ事ニ就テ。吾儕ノ尤冀望スル所  
ノ條件ハ。裁判征稅ノ兩權ヲ我ニ收ムルナリ。國  
家此兩權ヲ全有セザレバ。獨立自主ノ國ト云フ  
一ニ嫌アルヲ免レズ。然レ氏此事我國方今ノ景  
況ニテ。頗ル言フベクシテ。未ダ行フベカラズ。思  
フニ。我國此兩權ヲ全有スル時ニ至ルハ。猶數年  
ノ星霜ヲ有スベシ。外國人ノ大ニ冀望スル所ハ。  
内地旅行ノ自由ヲ得ルナリ。然レ氏我政府ハ之



皆是ヲ遺ス  
モ聊顧慮  
沈吟スル所  
アリバク有官  
幸ニ各ル勿レ

ア欲セズ。其之ヲ欲セザル所以ハ。蓋シ我人民開  
化未ダ進マズ。殊ニ僻陬邊陲ノ地ニハ。頑固ノ徒  
猶多ク。或ハ殺害等ノ暴動アラシムヲ懼ル。ト  
又一ニハ狡黠ナル外國人ノ為ニ。愚蒙ナル邦人  
ノ損失ヲ受ケシムヲ慮ル。保護ノ基ク所ナリト。  
然レ氏余ガ所見ハ之ニ反セリ。外國人内地旅行  
ノ事ハ宜ク斷然之ヲ許スベシ。蓋シ目今我人民  
ニ乏シキ所ハ者ハ智識ナリ。缺クル所ハ者ハ開  
化ナリ。夫レ開化ヤ。智識ヤ。本来教學ニ由テ。以テ  
之ヲ漸進スベシト。雖氏。此事學校教育ハ致ス所

固ヨリ一朝一夕ハ能ク辨ズベキ所ニ非ズ。抑歐  
米各國人ノ彼ガ如ク智識ニ富之。開化ニ進ム所  
以他ニ非ズ。渠等通商交易。五大洲中至ラザル所  
ナク。練磨經驗ニ富ムニ。職トシテ之レ由ルナリ。  
故ニ人民ハ智識ハ。練磨ニ由テ長シ。開化ハ交際  
ニ由テ進ムト謂フベシ。此ニ由テ之ヲ觀レハ。目  
今我人民ハ智識ヲ長シ。開化ヲ進ムル最上策ハ。  
我人民ヲシテ多ク外國旅行ヲ為サシメ。練磨ヲ  
重子交際ヲ廣カスルニ過ル者ナシ。然レ氏此事  
亦唯空論ニ之ヲ言フ可クシテ。實事ニ施行スベ

カラズ其故何ントナレバ。多ク我人民ヲシテ外  
國行ヲ企テシムルニハ。其要スル所ノ鉅大ノ金  
額足ラザレハナリ。又我商人我ヨリ船ヲ出シ。或  
ハ外國ノ郵船ニ駕シ。外國ニ航シ。貿易ヲ為ス。  
方今ニ在テハ。人々皆自由自在ナレ氏。此事亦財  
本或ハ智識ニ乏シクシテ。未ダ容易ニ行ハルベ  
カラズ。左スレバ。目今外國人ノ我内地旅行ヲ望  
ムハ幸ナリ。速ニ其請ヲ許シ。我帝國一般人民ノ  
智識開化ヲシテ。外國人ト交通練磨ニ由テ。日ニ  
長シ月ニ進マシムベシ。蓋練磨閱歴ハ功ハ百聞

俗言用井得テ  
却テ雅味アリ  
所謂引用妙

一見ニ如カズ。又習フヨリ慣ルハナリ。然レ氏此  
事ニ就テ。廟堂ノ深ク憂慮スル所ハ。前ニ言フ如  
ク。愚蒙ナル邦人ノ狡黠ナル外國人ノ為ニ。利益  
ヲ奪ハレ。損失ヲ受ルナリ。此事實ニ然ルベシ。然  
ニ一度斯ル事ニ逢ハザレバ。愚蒙ヲ闡キテ。智識  
ニ進ムノ期アルナシ。抑夫ノ西洋人往昔十字  
軍ノ為ニ。前後幾百万ノ資本ヲ費用セシヤ。得テ  
知ルベカラズト雖氏。由テ以テ東西各地ノ人互  
ニ相接シ。買得タル者ハ。智識學術ナリ。一時ノ疲  
弊固ヨリ多シト雖氏。後來ノ裨益實ニ尠カラズ。

却テ優ニ之ヲ償フニ足レリト云ヘリ。而シテ我  
國今ヲ距ルニ、僅ニ十數年前ノ事ヲ回思スレバ、  
各港ヲ開キ、外國交易ヲ為スニ、我國未曾有ノ  
大患害ナリト。思ヒタル人ノミニテ、鎖港ノ論頓  
ニ生ジ、攘夷ノ議盛ニ起リタリ。然ニ外國交際ハ  
自然ノ運歩ニシテ、理勢之ヲ拒絶スベカラズ。舊  
政府已ムニ、得ズ、漸ク各港ヲ開キ、遂ニ今日ノ  
形勢ト為ルニ至レリ。今ニシテ之ヲ觀レバ、鎖港  
攘夷ノ論ト、開港交通ノ説ト、是非得失、殆ンド辨  
ヲ疾タズシテ明カナリ。我人民、目今漸ク文明開

化ノ端緒ヲ曉リ、畧西洋諸學術ノ利益ヲ知リ、智  
識練磨セズハアルベカラズ。作業勉勵セズハア  
ルベカラズト云フニ、知リタル者、其由来如何  
ト問フニ、是皆開港交通、僅ニ十數年前ノ効ナリ。今  
試ニ十數年前ノ前ニ遡回シテ、之ヲ視レバ、當時西  
洋ノ學術ヲ以テ、我ヨリ長ゼリトスル者ハ、醫家  
兵家僅々十數人ニ過ギザルノミ、彼國ノ法律ヲ  
是トシ、文明開化、又自由自主等ノ事ヲ辨知セル  
者ハ、未ダ曾テアラザルナリ。爾後數年ヲ出ズシ  
テ、少年ノ書生モ口ヲ開ケバ、則開化文明自由自

主等ノ事ヲ唱スルニ至ル。豈之ヲ大進歩ト謂ハザルベケンヤ。然リ而シテ此大進歩ヲ致ス所以。豈夫ノ開港交通ノ實効ニ非ズヤ。今日内地旅行ノ論ハ。猶十年前開港論ト同一般ナルベシ。十年前ニ在テハ。今日開港ノ利ハ。智者ト雖モ。猶知ラザル所ナリ。然レバ則自今十年ノ後。内地旅行ノ利益ハ。目今智者ト雖モ亦恐ラクハ未ダ知ラザル所ナルベシ。然ニ余ハ開港ノ利益ヲ以テ。亦推シテ内地旅行ノ利益ヲ知ルナリ。而シテ今ヤ斷然トシテ。内地旅行ヲ許シ。十年ノ後ニ至ラバ。我

大日本帝國。一般人民ノ智識開化。幾層ヲ増加スベシヤ。殆ンド我輩思慮ノ及バザル所アルベシ。蓋十年來開港交通ハ。効ハ。専ラ我國中以上ハ。智識開化ヲ增長セリ。十年以後内地旅行ハ。効ハ。我國一般ハ人民。即中人以下ハ。智識開化ヲ增長スベシ。其裨益タル亦宏大ナラスヤ。余ガ臆想ヲ以テ之ヲ度レバ。我輩ノ固ヨリ渴望スル所ノ。我政府裁判征税ノ兩權ヲ收メテ。五大洲中獨立不羈ノ自主帝國ト為ルハ。今ニシテ斷然内地旅行ヲ許スニ在リ。抑舊幕政府ノ時ニ方リテ。若シ夫レ

俄ニ各港ヲ開カバ。夫ノ攘夷黨ノ頑固輩。外國人  
 ヲ殺害スル者。陸續繼出シテ。奈何トモスベカラ  
 ガルニ至ラント。痛ク懸念憂慮セシニ。外國公使  
 ヲリ強迫セラレ。已ムコトヲ得ズ。遂ニ各港ヲ開キ  
 タレト。今ヨリ之ヲ視レバ。左マデ憂フル程ノ事  
 無カリケリ。然ニ今ニシテ先ツ裁判征税ノ兩權  
 ヲ收メザレバ。決シテ内地旅行ハ許スベカラズ  
 ト。肱ヲ張りテ論ズル者ハ。其議論固ヨリ愛國ノ  
 至情ニ出ルコトハ。論ナケレト。夫ノ前日ノ攘夷家  
 人。扼腕切齒シテ。鎖港ヲ為サント企望シタルト。

余則云々先  
 生ノ學識自  
 他先生別ア  
 リ超過者  
 ノ如シ蓋シ先  
 生ノ論ハ常ニ  
 開明ト道理ヲ  
 以テ勝テ他先  
 生ハ經綸ヲ以  
 テ勝ツモノカ

同日ノ論ニ陷リ。所謂言フベクシテ。行フベカラ  
 ザル者ナリ。豈之ヲ智ト謂フベケンヤ。余ハ則百  
 事自然ハ運歩ニ任セ。廟堂ハ政事ヨリ。人民一般  
 ハ智識開化ニ至ル迄。禹ノ水ヲ治ルガ如ク。其事  
 ナキ所ニ行リ。中道轉蹶ノ憂ナカラント。其冀望  
 スト云フ。

人材論  
 田真道  
 天ノ人材ヲ生ズルヤ。地方ニ因テ異同アリ。時世  
 ニ因テ優劣アリ。地方ニ因テ異同アル者ハ。專各  
 色人種ノ本土互ニ異ナルト。氣候ノ寒暄同ジカ

ラガル等ノ事ニ關係ス。時世ニ因テ優劣アル者ハ、同地方ニシテ、人材ノ出ル時ニ因テ、夏ニ懸隔ス。是首トシテ政治ノ廢興風俗ノ盛衰ニ關係ス。夫レ古昔亞細亞ニ多ク人材ヲ出シ。後世歐米各國ニ盛ニ人材ヲ出ス。詳ニ之ヲ言ヘバ、五帝三王ノ起ルヤ、人材支那ノ西北ニ多ク、後世ノ人材ハ、却テ其東南ニ在リ。鐵木真ノ起ルヤ、人材比々トシテ、蒙古ニ生シ。滿清ノ起ルヤ、人材多ク滿州ニ産シ。希臘ノ盛ナルヤ、人材希臘ニ萃マリ。羅馬ノ起ルヤ、人材悉ク羅馬ニ興ル。歐羅巴ノ起ルヤ、人

材多ク德佛英等諸國ニ生ズ。猶細ニ我日本帝國ノ歴史ニ就テ之ヲ觀レバ、檀原莫都以來人材多ク大和ニ生ジ。平安遷都以來、人材多ク山城ニ生ジ。源氏北條新田足利氏ノ互ニ起ルヤ、人材多ク關東ニ産シ。織豊二氏ノ起ルヤ、人材多ク尾張ニ出テ。徳川氏ノ起ルヤ、人材多ク三河ニ産シ。目今復古革新ノ際、人材多ク薩長土肥ヨリ出ヅ。其原因固ヨリ、一ナラズ。容易ニ知リ難シ。古人之ヲ氣運ニ歸ス。余按ズルニ、人材ノ輩出スル所以、容易ニ知リ難ク、固ヨリ、一言ノ能ク盡ス所ニ非ズト

奇論凡人夢  
夢ノ及カル所

雖氏。職トシテ能ク人ノ才氣ヲ暢發シテ屈抑セ  
ザルニ之レ由ル。即人性天授。自由自主。獨立不羈  
ノ氣象ヲ伸暢スルノ度ニ由テ。是ノ如ク人材ノ  
差等ヲ現ハスナリ。目今歐米ノ人材蕃盛ナル所  
以他ナシ。多ク此自由ノ氣ヲ發達スルノミ。亞細  
亞ノ風俗ハ。即君主歷制ノ政治。人民ノ材器ヲ籠  
絡ス。故ニ人材ハ展伸スル所。却テ僻陬邊隅。王化  
不及ハ處ニ在リ。是古來異常人傑ハ勃興スル處。  
必ズ文學流行ハ大都ニ非ズシテ。却テ邊境貧朴  
ハ野ニ在ル所以ナリ。然リ而シテ一豪傑崛起ス。

抑揚妙アリ

レバ。傍人ヲ鼓舞振作シテ。其材カヲ伸暢ス。是英  
王起ル所ハ地。必ズ多ク名賢ヲ出ス所以ナリ。目  
今薩長土肥ノ多ク人材ヲ出シテ。他ノ各藩ニ傑  
出スル所以。蓋亦斯ニ在リ。然レ氏我日本目今ノ  
人材ハ。我邦鎖國ノ時ニ養ヒ出ス所ノ人材ニシ  
テ。即日本流ノ人材ノミ。未ダ之ヲ世界ノ人材ト  
稱スベカラズ。今後我日本帝國ヨリ出ス所ノ人  
材。獨リ蜻蜒洲ノ人材ニ止マラズシテ。五大洲ノ  
人材タラン。一ヲ冀望スルナリ。然レ氏今後五大  
洲ノ人材ヲ我東方ヨリ出サント欲セバ。我帝國

人民自由自主。獨立不羈ノ氣象ヲ涵養シ。人民ノ規模ヲ宏大ニセズンバアルベカラズ。乃立法者。法ヲ制スルハ際、司柄者政ヲ布クハ時ニ在テ。大ニ斯ニ注意セズンバアル可カラザルナリ。

妻妾論

森

有禮

夫婦ハ交ハ人倫ハ大本ナリ。其本立テ而シテ道行ハル。道行ハレテ而シテ國始テ堅立ス。一人婚スレバ、則權利義務其間ニ生ジ。互ニ相凌グヲ得ズ。何ヲ權利トシ、何ヲ義務トス。其相扶ケ相保ツノ道ヲ云ナリ。即チ夫ハ扶助ヲ妻ニ要スルノ權利

ヲ有シ。又妻ヲ支保スルノ義務ヲ負フ。而シテ妻ハ支保ヲ夫ニ要スルノ權利ヲ有シ。又夫ヲ扶助スルノ義務ヲ負フ。苟モ此理ニ據リ、婚交セザル者ハ、未ダ人間ノ婚交ト目ス可ラザルナリ。今我邦婚交ノ習俗ヲ視ルニ、夫恣ニ妻ヲ役使シ。若シ一事其意ニ充タザルガ如キ、任意ニ之ヲ去ル氏。國法嘗テ之ヲ律サズ。是ヲ以テ權利義務其間ニ行ハルヲ得ズ。名ハ夫婦タリト雖、其實ヲ距ル甚遠シ。故余曰。我邦人倫ハ大本未ダ立タズト。從來婚法ニ數種アリ。媒ヲ用井テ婚スル者ヲ夫婦



ト稱シ、其婦ヲ妻ト目ス。媒ヲ用井ズシテ婚スル者ヲ妾ト名ヅク。或ハ妻ノ外一妾。或ハ數妾ヲ婚スル者アリ。或ハ妾ヲ轉ジテ妻ト為ス者アリ。妻妾併居スル者アリ。又之ヲ別ニシ、妻ヲ踈シ妾ヲ親ム者アリ。而シテ夫妻ノ婚ハ各其父母ノ協議ニ成リ。或ハ唯其許諾ヲ要スルアリ。夫妻ノ婚ハ之ニ異ナリ。惟其夫タル者ノ專決ト。妾家ノ承諾トニ成ル。或ハ金若干ヲ妾家ニ附シテ、之ヲ得ルアリ。之ヲ受出シト云フ。即金若干ヲ以テ之ヲ買ヒ、受ルハ義ナリ。而シテ其妾タル者ハ、槩ニ藝妓

其家系太々  
貴シト雖モ其  
血統本々賤シ  
故ニ此間一種  
好逃辭アリ  
曰ク腹ハ借リ  
モノト

遊女ノ類ニシテ、之ヲ娶ル者ハ、皆貴族富人ニ係ル。故ニ貴族富人ハ家系ハ買者ニ由テ存スル者多シ。妻妾併居スルヤ、其交際或ハ主從ノ如シト雖モ、夫常ニ妾ヲ偏愛スルニ由リ、妻妾交妒害、常ニ讐視スルニ至ル。故ニ妻妾或ハ數妾アル者ハ、散シテ之ヲ別所ニ置キ、己レ先ツ其溺愛スル所ノ者ト共ニ居リ、其醜行ヲ恣ニスル者多シ。甚キハ妾ヲ婚スルヲ榮トシ、之ヲ為ガル者ヲ辱ムル風アリ。國法妻妾ヲ同視シ、又其生子ノ權理ヲ平等ニス。故ニ余今茲ニ我邦人倫ハ大本未ダ立タ

ハルヲ辨シ其風俗ヲ害シ開明ヲ妨グルハ状ハ  
他日又之ヲ論ゼント欲ス

男女同教論

福澤諭吉

近日男女同權ノ議論甚ダ喧クシテ孰レカ是非  
ナルヲ知ラズ都テ事物ノ議論ヲスルニハ先ツ  
其事物ノ品柄ヲ吟味セザレバ叶ハヌナリ故  
ニ此同推論ニ就テモ先ツ男女ノ何物タルヲ察  
シ推ノ何事タルヲ詳ニシテ然ル後ニ其是非得  
失ノ議論ニ取掛ル可キナリ若シ然ラズシテ銘  
々ノ所見ニ從ヒ男女ノ性質ヲ臆測シ推ノ字ヲ

推量シテ思ヒ思ヒニ説ヲ述ルニアラバ其際限  
ナク所謂水掛論ナリ譬へハ男女同席ナドスル  
片婦人ヲ上坐ニ据ルガ如キハ尊敬ト云へハ尊  
敬ナリ扶助ト云へハ扶助ナリ扶助ト思へハ腹  
モ立たズト雖モ一生懸命ニ婦人ヲ崇ム奉ルト  
認レバ亦切齒扼腕スルモ可ナリ大抵世ノ中ノ  
議論ハ此位ノモノナレバ余ガ考ニハ此事ニ就  
テハ騷々シク是非ヲ述立テズシテ極々手近ナ  
ル處ノ一端ヲ揚ゲテ誰ニモ了解シ易キ工夫專  
一ノト思フナリ即其一端トハ宗旨ニモ非ズ

放言高論滿  
座之雁倒ス  
其雄才想フ  
ベシ學士ニ  
テ蒙僕我福  
澤先生ニ於テ  
之ヲ見ル

理論ニモ非ズ、十露盤ツクハ話ニテ、誰ニモ分リ  
易キ男女同數論ナリ。先ツ世界中ノ男ト女ノ數  
ハ、大抵同様ナルユエ、男一人ト女一人ト、相對シ  
テ夫婦ニナル可キ勘定ナリ。若シ左モナクシテ、  
此處ニ餘計ハ如ク引込ムバ、彼處ニ不足ナカル  
可ラス。イロハガルタノ娘ヒトリニ、婿ハ人ガ不  
都合ナレバ、男ヒトリニ、妻ハ人モ亦不都合ナラ  
ズ。今日ハ處ニテハ、同權ナドムツカシキ話ハ止  
ムニシテ、男一人女數人ハ交際ハ、十露盤ハ勘定  
ニ合ハヌユエ、宜シカラズトハミ云テ、之ヲ同權

ハ初段ト為シ、其餘ハ議論ハ學問ハ上達スルマ  
テ、延引ト定ム可シ。或ハ此話モ尚早シトノ説ア  
ラバ、妾ヲ養フ一モ、藝者ヲ買フ一モ、黙シテ許サ  
ン。唯之ヲ内證ニシテ、人ニ隱ス可シ。人ニ隱スハ  
耻ルノ初ナリ。人ニ耻ルハ自ラ禁ズルノ初ナリ。  
此同權ノ初段、世ニ行ハレテ、數年ノ後ニ今ノ水  
掛論モ、何レニカ落著ニ及ブ可キナリ。  
夫婦同權ノ流弊論 加藤弘之  
森福澤兩先生ノ夫婦同權論出シヨリ、夫婦ノ真  
理漸ク世ニ明カナルヲ得タレバ、從來夫ノ婦ヲ

蔑視スル惡風ト。妾ニ妻ヲ蓄フ醜俗次第ニ廢滅  
シ。隨テ夫婦ノ同權真ニ實際ニ行ハル、ニ至ル  
可シ。兩君ノ功績豈偉大ナラズヤ。然ニ愚ヲ以テ  
之ヲ視レバ、方今歐洲夫婦ノ權カタル。其制度上  
ニ於テハ、殆ト同一ニシテ、頗ル天理ニ協合スト  
雖氏。今日ノ交際上ニ於テハ、婦權却テ夫權ニ超  
ユルガ如シ。是レ蓋シ夫婦同權ノ理ヲ誤認スル  
ヨリ生ゼシ弊害ナリ。今其一二例ヲ舉ゲンニ。夫  
婦共ニ門戸ヲ出入スルニ、婦ヲ先ニシテ夫之ニ  
隨ヒ、着席スルニ婦ヲ上坐ニ着カシメ、夫ハ次坐

ヲ占メ、他人夫婦ノ家ヲ訪フトキハ、先ツ婦ニ禮  
ヲ述テ、而シテ後夫ニ禮ヲ述ブ。夫婦ノ名ヲ呼ブ  
トキハ、婦名ヲ先ニシテ夫名ヲ後ニス。其他婦人  
ト同坐スルトキハ、特別ニ言語ヲ慎ミ、又其許可  
ヲ得ザレハ、喫烟セザル等。此類枚舉スルニ暇ア  
ラス。婦權ノ大ナル真ニ驚クニ堪ヘタリ。洋人ハ  
從來此風習ニ浸染ス。故ニ敢テ其不條理ナルヲ  
悟ル能ハザルガ如シト雖氏。我輩東方人ヨリ之  
ヲ見レバ、實ニ怪シムベキ風習ト云ハザル可ラ  
ズ。豈之ヲ夫婦ノ同權ト云フ可ケンヤ。余頃日某

家ニ於テ許多ノ女ト同坐シ。縦ニ烟ヲ喫シタリ  
時ニ一洋客余ニ向テ許多同坐ノ貴婦人等喫烟  
ヲ好マザレバ。足下請フ烟ヲ禁ゼヨト云ヘリ。余  
モ亦固ヨリ洋婦ノ側ニテ。喫烟ヲ禁スルノ風習  
アルヲ知ルト雖氏。素ト其不條理ナルヲ以テ。敢  
テ之ニ從ハズ。是等ハ公平ニ論スレバ。實ニ失敬  
千万ノ口上ト云ハザル可ラズ。婦人ノ側ニテ喫  
烟ヲ禁ズルハ。素ト婦人ノ烟ヲ好マザルニヨル  
由ナレ氏。余ハ烟ヲ好ム故。余ガ自由ハ權ヲ以テ  
喫スルナリ。婦人ノ好マザレハ。自ラ其席ヲ避

辨論快活懸  
河如シ先生  
自由ノ烟ヲ喫シ  
自由ノ舌ヲ掉  
フ誰カ一字ノ  
不ノ字ヲ云ハシ  
只口角ノ大家  
先生ニ似ザル  
惜ム

ケテ可ナリ。自ラ好マザルハ故ヲ以テ。人ハ自由  
ヲ妨グルハ理。決シテ之レアル可ラズ。且ツ烟ヲ  
好マザルハ。豈獨リ婦人ニ止マランヤ。男子モ亦  
之ヲ好マザル者アリ。然ニ男子ハ側ニハ。其好ム  
ト否トヲ問ハスシテ之ヲ喫シ。獨リ婦人ハ側ニ  
禁ズルハ何カヤ。實ニ解不可ラザルハ至ト云フ  
ベシ。且ツ喫烟ノ下若シ人道ニ背クカ。或ハ他人  
ノ健康ヲ害スルコトナラバ。余モ亦固ヨリ之ヲ為  
サズ。苟モ人道ニ背カズ。人ノ健康ヲ害スルコト  
ケレバ。豈男女ノ差別ニ由テ。其行止ヲ定ムルノ

理アラシヤ。是等ノ如キ固ヨリ小事ナルカ如シト雖氏。素ト夫婦同権ノ理ヲ誤リ。夫媚ヲ婦ニ獻ジテ。其歡心ヲ得ント欲スル痴情ヨリ生ジタル惡弊ナルト瞭然タリ。宜ナル哉。歐洲貴婦ノ名ヲ得タル婦人ニシテ。往々犯姦ノ醜行聞クニ忍ビザル者アルニ至ル。豈懼レサル可ケンヤ。目今本邦夫婦ノ同権漸ク實際ニ行ハレントスルノ機至ルノ際。有識者能ク此理ヲ知テ。預メ之ヲ防ガザレバ。將來婦權強大ノ弊害。遂ニ制ス可ラザルニ至ラン。諸君以テ如何ト為ス。

民選議院ノ時未ダ到ラザルノ論

神田 孝平

軍力直分法

民選議院豈容易ニ起ル可ケンヤ。時節到来セバハ決シテ起ラズ。且時節到来スト雖氏。其時節ハ決シテ喜ブベキ時節ニハ非ザルベシ。抑モ民選議院建設ノ時節ハ。國体ノ變ジテ君主專權ヨリ君民分推ニ遷ルノ時ナリ。此時ヤ人民ハ權利ヲ得ルトナレバ。或ハ不承知アルマジキカ。夫レステ未ダ此度トハ云ガタシ。朝廷ニ於テハ其推ク半ヲ譲リ玉フトナレバ。快ヨク許可シ玉フベ

キヤ否ヤ。未ダ知ルベカラズ。若シ快ヨク許可シ  
 玉ハゞ。大ニ事ノ抄取トナルベケレ氏。此事殆ト  
 アルベシトモ思ハレズ。一時人心ヲ慰撫センガ  
 為ニ與ヘ玉ヘルガ如キハ。他日マタ奪回シ玉フ  
 下アルベケレハ。兎角未ダ確定トハ云ガタシ。況  
 ヤ快ヨク許可シ玉ハザルトキハ。人民如何ニ冀  
 フト雖氏。センスベナカラシ。我國人民ノ淳良ナ  
 ルヲ見レバ。外國人ノ如ク兵ヲ起シ。朝廷ニ迫リ。  
 戦ヒ勝テ條約ヲ立ルト云フ程ニモ至リ難カラ  
 シ。故ニ時節到来セザレハ起ラズ而シテ亦今ハ

收束法アリ

文勢滔々積  
 水ヲ決スルガ  
 如ク圓石ヲ  
 轉スルガ如シ  
 所謂一氣呵  
 成ナル者乎  
 少年輩能ク  
 此等ノ處ヲ  
 熟讀領得セ  
 バ才思自カラ  
 暢舒筆氣沛  
 溢ノ病ヲ免ル  
 ベシ

未ダ到来ハ時節ニ非ザルナリ。概シテ之ヲ論ズ  
 ルニ。聖賢位ニ在ル間ハ。民選議院起ラズ。敵國外  
 患ハ迫ラザル間ハ。民選議院起ラズ。外國人ハ金  
 ヲ貸ス間ハ。民選議院起ラズ。楮幣通用スル間ハ。  
 民選議院起ラズ。人民増税ヲ甘承スル間ハ。民選  
 議院起ラズ。然リト雖氏。世界ハ活物ナリ。何日テ  
 モ。聖賢位ニ在リト定ムベカラズ。何日テモ。敵國  
 外患ナシト定ムベカラズ。何日テモ。外國人金ヲ  
 貸ト定ムベカラズ。何日テモ。楮幣通用スト定ム  
 ベカラズ。何日テモ。人民増税ヲ甘承スト定ムベ

カラズ。向來時アリテ。人民増税ヲ甘承セズ。楮幣  
通用止マリ。外國人民金ヲ貸サズ。敵國外患競ヒ  
起リ。聖賢タマク位ニ在ラザルヲアラシム。万一カ  
ルヲアラバ。其時ニハ如何カハセシ。民選議院  
起ラズンバ。必ズ國亡ビシ。國亡ビズンバ。必ズ民  
選議院起ラシ。是レ我所謂時節到來ハ時ナリ。雖  
然。是レ甚ダ企望スベキ時ニアラズ。故ニ時節到  
来スト。雖凡其時節ハ決シテ喜ブ可キ時節ニ非  
ザルナリ。

駁舊相公議一題

西 周

首尾重複筆  
力透徹

主意民選議  
院ヲ非トスルニ  
非ス只其蔽  
ル所ヲ論スル  
ナリ故曰云々  
者者題名ヲ  
以テ論意ヲ  
誤ル勿レ

余舊參議諸公。左院ニ建白シ。民選議院ヲ起スノ  
議ヲ讀之。竊ニ疑ナキ能ハズ。嘗ニ其言ノ蔽ハル。  
所ヲ舉テ之ヲ言ハシ。蓋其大意云フ政府ノ強キ  
ヲ致スハ。天下人民ノ同心ヲ致スニ在リ。人民ノ  
同心ヲ致スハ。民選議院ヲ起スニ在リ。而シテ所  
謂議院ノ法ハ。西洋ノ成規ヲ取テ。之ヲ我ニ施ス  
ニ在リ。猶瀛車電信ノ法。西洋ノ發明ニシテ。取テ  
之ヲ我ニ用ユルガ如シ。若シ我自ラ瀛車電信ヲ  
發明スルヲ待チ。然後瀛車ヲ用井電線ヲ架スル  
ヲ得ベシト。則政府ハ應ニ手ヲ下スノ事ナカル



ベシト。嗟亦何ゾ。其言ノ。條理ヲ。失スルヤ。瀛車電  
信ノ如キ。西洋ニ在リ何等ノ學ニ在テ之ヲ講シ。  
何等ノ書ニ於テ之ヲ論ズルヤ。格物ナリ。化學ナ  
リ。器械ナリ。亦夫ノ政事ナリ。法律ナリ。教法ナリ  
ト同日ニシテ論ズベキカ。余未ダ英ノ引力。佛ノ  
引カト法ヲ異ニシ。日ノ電氣米ノ電氣ト。道ヲ異  
ニスルヲ聞カズ。而シテ何ゾ獨リ政事ニ至テ之  
ニ反スル。英ノ議院。佛ノ議院ト其法ヲ同ウセズ。  
而シテ英ノ政體。米ノ政體ト。天壤相反スルハ何  
ツヤ。今瀛車ノ如キ。我ノ才學アル者ヲ撰之。之ヲ

西洋ニ遣リ。講究セシムル一數年ナラバ。其術ヲ  
盡スニ足ラン。而シテ之ニ資本ヲ授ケ。之ニ事ヲ  
幹セシメバ。則其功ヲ竣ムルモ。日ヲ期シテ待ツ  
ベシ。乃政事ニ至リ。亦同一轍ニシテ。必ズ治功ヲ  
見ント欲スルヤ。且今將ニ論者ノ心ニ問ハン。汝  
試ミニ一拳石ヲ取テ之ヲ空中ニ擲テ。而シテ其  
石汝ノカノ比例ニ從テ上テ天ニ朝セシ。然ルニ  
上ル極マレハ必ズ下ル。其下ルヤ。自來ノ速力ヲ  
以テセン。是三尺ノ童モ疑ハザル所ナルベシ。而  
シテ今試ミニ汝が未ダ平素ハ交ナキ一貧人ヲ

以上一節政事  
電信蒸氣  
同ノ理ヲ以テ  
論ス可カズル  
多論ス

雇ヒ之ニ百圓金ヲ附シ。遠ク三十里ハ外ニ至テ。  
一物品ヲ買ハシメヨ。而シテ汝乃其人ハ必ズ其  
物品ヲ買テ復命スルヲ知ル。石ハ空中ヨリ落  
ルト同一タルヲ期センヤ。抑余聞ク西洋政事ノ  
學ニ在テハ。人民開化ノ度ヲ審ニシ。時ニ適シ地  
ニ適シ。以テ其宜シキヲ制スルニ在ルノミト。是  
レ夫ノ物理ノ諸學ト。本来ノ理法ヲ異ニスル者  
ナリ。今比シテ之ヲ一ニセント欲ス。西洋ニ在リ  
果テ其學アリヤ。又曰ク人民政府ニ對シ。租稅ヲ  
拂フノ義務アルハ。則其政府ノ事ヲ與知可否ス

ルノ權理ヲ有ス。是天下ノ通論ナリト。通論ノニ  
字何等ノ義ゾ。人民既ニ租稅ヲ出ス。則是一對シ  
テ其保護ヲ望ムノ權利ヲ有スベシ。然ニ其之ヲ  
參與可否スルノ權利ハ則其國創メテ政體ヲ建  
ル時ニ在テ之ヲ定ムベシ。今夫レ政府ヲ以テ國  
民約束ヨリ成ル者トシテ之ヲ論ズ。國民曰ク我  
レ我ガ力業ノ半ヲ汝有司ニ出シテ以テ汝ヲ養  
フ。汝之カ為ニ我ヲ治メヨト謂フ。是一約束ナリ。  
國民或ハ曰ク我レ我ガ力業ノ半ヲ汝ニ出シ以  
テ汝ヲ養フ。汝之ガ為ニ我ヲ治メヨ。而シテ汝ヲ

シテ肆縦ナラシメサラシムル為ニ。我レ先ツ法  
 ヲ制シテ之ヲ與ヘン。汝此法ニ遵テ我ヲ治メヨ  
 ト謂フ。是亦一約束ナリ。故ニルウソー氏ノ説ニ  
 據リ。政府ヲ以テ全ク約束ヨリ成ルトスルモ。政  
 府ノ事ヲ與知スルノ權利ハ。租税ヲ出スト相對  
 スルノ權利ニ非ズ。況ヤ一國ハ政府ハ。必ス約束  
 ニ興ル者ニ非ズ。古來歷史上ハ沿革其源ヲ異ニ  
 スル者アルニ於テヲヤ。是ヲ以テ天下ハ大理ヲ  
 究メタリト謂フ。余未ダ何等ハ學ニ淵源スルヲ  
 知ラズ。又曰ク人民ヲシテ學且智ニ。開明ノ域ニ

以上一節人民ノ租税ヲ拂フ者ハ必ス政事ニ參與スルノ權アリト云フハ通論ニ非カルヲ論ス

進マシムルノ道。即民選議院ヲ立ルニ在リト。又  
 曰ク先其通義權理ヲ保護セシメ。自尊自重天下  
 ト憂樂ヲ共ニスルノ氣象ヲ起サシムト。所謂人  
 民ノ權理ヲ保セシムルノ道ハ。何ニカ在ル。之ヲ  
 民選議院ニ在リトスルカ。之ヲ司法ノ任ニ在リ  
 トスルカ。上抑壓ノ政ナク。而シテ司法誠ニ其平  
 ヲ得バ。人民ノ權理亦保全スベシ。夫ノ自尊自重  
 天下ト憂樂ヲ共ラスルノ氣象ヲ有スルハ。學識  
 アルノ人ニ望ムヘシ。其學識ヲ起ス。之ヲ文部ノ  
 政ニ求メズシテ。之ヲ議院ヲ開クニ求メントス

以上一節人  
民ノ開明ヲ  
進ムルハ民選  
議院ニ存ト  
云ノ非ヲ論ス

ルハ。亦真ニ其道ヲ得ルノ手段ト謂ハンカ。且夫  
演劇ノ一技ノ如キモ。之ヲ演スルヲ學ンデ。而シ  
テ後ニ舞臺ヲ開カンカ。又先ツ舞臺ヲ開テ而シ  
テ後ニ之ヲ演習センカ。嗟演劇ノ如キ既ニ之ヲ  
開クモ。客ノ來ル無キハ。則止マン。而シテ縱ヒ演  
技其法ヲ失スルモ。亦害ナカルヘシ。今天下ハ政  
事ノ如キ。亦是ヲ演習ハ場地トナスベケンヤ。凡  
此等ノ論。諸公身既ニ嘗テ廟堂ノ上ニ在テ。自ラ  
體驗スル所ナリトセバ。則余諸公ノ為ニ慨セザ  
ルヲ得ズ。且夫帝室漸ク其尊榮ヲ失ヒ。政令百端

朝出暮改。政情實ニ成リ。賞罰愛憎ニ出ルノ數言。  
諸公職ヲ去ルノ後。年間ニシテ政府之ヲ改ル  
能ハザレバ。則之ヲ謂フモ可ナリ。退ク數月ニシ  
テ顧ミテ之ヲ以テ之ヲ政府ニ責ム。亦自ラ其面  
ニ腫スルガ如キハ。余竊ニ諸公ハ為ニ取ラハ  
ル所ナリ。然リト雖。方今ノ勢。政推ノ帰スル所。  
上帝室ニ在ラズ。下人民ニ在ラズト云フ者ハ。則  
之アリ。之ヲ維持シテ。堅牢不拔ナラシメント欲  
スル。或ハ議院アリテ。其權ヲ分ツニ在ルモ。亦其  
理ナシト謂フ可ラス。唯之ヲ民選ニ取リ。遽ニ西

此一段別ニ二節ニ拘ハラヌ上數節ニ漏ル所ト其ニ條關係ヲ論ジ以テ此文ノ結局ヲ成シ忽チ又余今云々ヲ以テ一意ヲ生シ深ク此ハ空手ノ舉動ヲ識リ遂ニ其上書中引ル語ヲ用井テ結ヒ合書重リ餘情アリ文人ノ骨隨ヲ得タリト云ヒ

洋下院、法ノ如クナランヲ欲スルハ之ヲ時ニ徵シ之ヲ人民開化ノ度ニ質シテ未ダ其肯綮ヲ得タリト謂フ可ラザル者ノ如シ余今敢テ議院ヲ起スノ可否ニ就テ之ヲ論ズルニ非ズ殊ニ其論中偽論甚ダ多キヲ恐ル此等ハ偽論天下人民ハ耳目ヲ煽動シ誤テ一旦偽論家ハ議院立ツトアラバ則偽論家偽論家ト相議シ天下ハ事爰々乎トシテ亦殆カラザランカ

今體名家文抄卷之二終

偶今體名家文抄卷之三

土居光華編選

西洋ノ開化西行スル説

津田真道

瞿曇氏天空ニ興リ法ヲ昉メ其法東行シテ吐蕃蒙古西北利亞滿州暹羅安南支那朝鮮ヲ經テ我日本ニ入りテ止マル之ヲ佛法ノ東漸ト謂フ亞細亞ノ民大半其化ヲ被ル孔子ノ道亦東朝鮮ヲ經テ我國ニ來リ又南交吐安南琉球ニ及ブ豈其

行步東南一傾ク者カ。回教亞刺比亞ニ始マリ。一  
ハ西行シテ土耳其ヨリ。亞非利加洲ノ北岸ニ沿  
ヒ。海峡ヲ踰エテ西班牙ニ入り。耶蘇教ト戦ヒ敗  
績シテ退テ亞非利加ヲ保ツ。一ハ東行シテ波斯  
ヲ經テ天竺ニ入り。印度諸島ニ散布ス。西洋ノ文  
化ハ。源ヲ天竺ニ發シ。耶蘇教ハ小亞細亞ニ起リ。  
希臘羅馬ヲ經テ。歐羅巴全洲ニ流行シ。西亞太臘  
海ヲ超テ。南北阿美利加洲ニ跨リ。更ニ太平洋ヲ  
渡リ。日本支那ニ來ル。往々亞細亞全洲ニ蔓延セ  
ントスルノ勢アリ。蓋シ其本國故郷天竺小亞細

亞ニ復歸シ。地球ヲ一周シテ。五大洲ニ光被セン  
ハ。夫レ地球ハ圓体ナリ。東漸西行豈異アラハ  
ヤ。然ルニ今姑ク地球運行ハ理ニ準シテ之ヲ論  
ズレバ。東漸ハ逆歩ニシテ。西行ハ順道ナリ。室ハ  
リ。西行スル者ハ漸ク前行蔓延シテ。東漸スル者  
ハ遂巡趨趨スルヤ。而シテ回教順道西下シテ。却  
テ耶蘇教ニ破ラル。其故如何。曰ク其道耶蘇ニ劣  
ルナリ。初耶蘇教ノ本邦支那ニ入ルヤ。葡萄牙ヨ  
リ來ル。然レ凡我國ニ於テ嚴ニ之ヲ禁シ。支那國  
内ニモ亦行ハレズ。近今本邦支那。共ニ歐米各國

ト交際ヲ開キテヨリ。西洋ノ開化駁々トシテ入  
 ル。而シテ其入ルヤ。職トシテ米利堅人ニ是由ル。  
 夫レ歐米ハ開化。固ヨリ一ニシテ二ナシ。然レ氏  
 歐ハ學術ハ。極テ精微深遠ニシテ米ハ文化ハ猶  
 麁略淺近ナリ。麁ヨリ密ニ入リ。近ヨリ遠ニ行ク。  
 是人性ハ自然ナリ。米ハ書ハ讀易ク。米人ハ説ハ  
 聽易シ。故ニ本邦支那ハ人。洋學ヲ講求スル多ク。  
 ハ米書ニ依リ。洋説ヲ聽ク亦主トシテ米人ニ頼  
 ル。蓋シ是レ開化自然ハ流行ニ從フナリ。或ヒト  
 曾テ英公使ハ書記官。サトウ氏ニ語テ曰ク。英學

英米今日猶  
 相惡ミ相容  
 レル情景ア  
 リ文明ノ玷  
 瑕ト云フベシ  
 然ニ愛國心  
 根スル所好ス  
 可クシテ外ム  
 可カラサルナリ

頗ル日本ニ行ハルト。サトウ氏頭ヲ掉テ曰ク。否。  
 米學ナリト。余恆ニ曰ク。西洋ハ開化ハ順歩西行  
 シテ。終ニ全地球ニ達スト。蓋シ十百年ハ後ニ至  
 リ。世人始テ余ガ言ハ欺カザルトヲ知ラント爾  
 云フ。

保護税ヲ非トスル説 津田真道

近今我國各港出入品額ノ比較ヲ問フニ。去ル明  
 治五年ニ於テハ。輸入ノ品物輸出ノ金額ニ踰ユ  
 ル。一。大畧八百萬圓。明治六年ニ於テハ。又輸入ノ  
 數。輸出ヨリ多キ。一。概畧七百萬圓ナリト云フ。之

二加フルニ院省使府縣。并ニ平民雇フ所ノ外國  
教師ノ給料。概スルニ二百萬圓。國債ノ利子若干  
萬圓。此ノ如クナレバ。我國ノ金貨外ニ出テ。帰ラ  
ザル者十年ニシテ大數一億圓。然レバ則我國ノ  
金銀。十數年ヲ出ズシテ。悉皆散失スルニ至ラン。  
憂國者曰ク夫レ金銀ハ人民ノ資本ニシテ。國家  
ノ由テ以テ立ツ所ナリ。然ルヲ一朝空乏此ノ如  
キニ至ル。人民何ニ由テ生シ。國家何ニ由テ立ン。  
豈長歎大息ニ任ザランヤ。豫防ノ策設ケズンバ  
アル可カラズ。昔時歐洲ニ智者アリ。始テ保護稅

一句其非ヲ  
喝破シ然ル  
後徐々分條  
論辨乃文法  
ノ尤モ見易  
ク習ヒ易キ  
モノ是レ余カ  
此篇ヲ選入  
スル所以ナリ  
其論意ハ  
八方今我帝  
國ノ為ニ取  
サレ所ナリ

ノ法ヲ設立シテ。此弊ヲ濟ヒ。米國ニ於テハ。目今  
猶之ヲ襲用セリ。我國今日ノ形勢。國運ヲ維持ス  
ルノ術畧。獨保護稅ノ法ニ倣フニ在ルノミト。余  
曰ク此說非ナリ。夫レ保護稅ハ保護ニ非スシテ。  
却テ一般國民ハ害ヲ招ク惡法タルトハ。西洋各  
國經濟學者ハ辨明スル所ニシテ。大抵異論アル  
トナシ。但米利堅ニ於テハ。之ヲ是トスル說多シ  
ト云フ。蓋米利堅ノ工業歐羅巴ノ精巧ニ比スレ  
バ。猶疎ナル所アリ。猶拙キ所アリ。故ニ諸物製造  
ノ費用。未タ歐羅巴ノ如ク廉ナルヲ能ハズ。故ニ



船齋ノ商品ニ高税ヲ賦シテ。内國ノ工場ヲ保護ス。蓋シ一般人民ノ不利ナルヲハ。猶免レザレ氏往々米國ノ工場ヲ盛大ナラシムル目的ナルノミ。抑モ我國ノ學術工藝。米國ト優劣奈何。蓋シ未ダ日ヲ同ジウシテ語ルベカラザルナリ。況ヤ歐洲各國ト馳驅ヲ争フベケンヤ。殆ト兒女子ヲシテ偉丈夫ト競鬪セシムルガ如シ。是外國教師ノ給料二百萬ナルモ。猶已ムベカラザル所以ナリ。然レハ則我國今日ノ形勢ニシテ。徒ニ米國治國ノ計ニ倣ハントス。智愚謂ハズシテ知ルベキノ

第一條

ミ。サレドモ世間ニ所謂輕進者流ノ頗ル多キヲ以テ。未ダ保護税說ノ世ニ出ザルニ方リテ。左ニ聊數則ノ婆言ヲ陳セントス。我國各國ト貿易ノ條約書ニ税則ヲ附シタリ。故ニ我政府擅ニ保護税ヲ行フベカラズ。是保護說ノ行フベカラザル其一ナリ。鍊ハ重量ノ品物ニシテ。運送ノ費用少カラザルナリ。然ニ今ヤ遙ニ英國ヨリ。數千里ノ洋上ヲ齋ラシ來ル所ノ鍊價。却テ我國固有ノ鐵ヨリ廉ナリ。其故唯開墾製鐵ノ術ノ工拙ニ係ルノミ。古人曰ク。有智無智相距ルト三十里ト。今ヤ

第二條

有術無術相距ル。當ニ三千里ハハナラズ。豈啻製  
 鐵ハハナラズ。百般ハ術工相距ルハ度。大抵此  
 ハ如シ。然ルヲ保護税ノ一法ヲ以テ彼ト其術工  
 ヲ競ヒ争ハントス。抑亦思ハザルノ甚シキナリ。  
 豈啻尚早キノミナラニヤ。是保護税ノ非ナル其  
 二ナリ。昔時ハ我國人ノ洋品ヲ愛スル。只玩弄ノ  
 具ニ過ギザルノミ。今ヤ衣服家什ヨリ。飲食ノ具  
 ニ至ルマデ。概ネ欠クベカラザル需要ノ品物ト  
 成レリ。都下ノ如キハ。家屋ノ製尚ホ往々洋風ニ  
 變ジタリ。然ニ今羅紗毛布等。諸般欠クベカラザ

第三條

ル洋品ニ重税ヲ賦シ。我國ノ工藝ヲ保護セント  
 ス。我國內未ダ。此等ノ工場アルトナシ。是保護税  
 ノ非ナル其三ナリ。十年前マテ。國內大概。攘夷論  
 ヲ唱フルトナリシガ。今ヤ豹變シテ國人。大抵洋  
 風ヲ慕ヒ。洋品ヲ愛シ。遂ニ輸出入ノ差。年々數百  
 万ノ多キヲ為スニ至ル。是レ時運ハ然ラシムル  
 所ト雖モ。又在延ハ君子。風ヲ移シ。俗ヲ更ハハ致  
 ス。所ナリ。而シテ今頃ニ重ク洋品ニ税シテ。其輸  
 入ヲ減ジ。國人ハ所需ヲ充ルヲ妨ケントス。是右  
 手ニ之ヲ揚ケテ。左手ニ之ヲ抑ハルニ等シ。謂レ

第四條

ナキノ至ト云ヘシ。是其說ノ非ナル其四ナリ。抑  
我國目今ハ形勢。國人纔ニ西洋開化ノ善美ナル  
門牆ヲ窺フノミ。而シテ未ダ開化ノ堂奥ニ進入  
セズ。或ハ之ヲ小兒ノ小學校ニ入ルニ比スベシ。  
未ダ大學ニ入ル生徒ニ喩フベカラズ。夫レ大學  
生徒ト雖。未タ成業ニ至ラザレバ。年々許多ノ學  
費ヲ償フノミニテ。未ダ其利益ヲ得ル一能ハズ。  
故ニ我國方今ノ景況ニ於テ。國人ノ智識一層ヲ  
進メバ。輸出入ノ差。從テ一層ヲ加フベシ。豈其減  
スルヲ望ムベケンヤ。是保護稅說ハ非ナル其五

第五條

論辨已ニテ  
忽チ豫防法  
ヲ設ケン容  
喙ノ拒ク是  
亦論文中知  
ラザル可カラ  
サルノ法

ナリ。然ラバ則現今ノ景況ノマ、ニ打捨置カバ。  
十數年ノ後ハ。我國内ニ金銀ノ影ダニモ。見ル一  
能ハザル様ニ成リ行ニカト。憂フル人アリ。余曰  
ク憂フル一勿レ。余斷シテ其然ラザルヲ保ツナ  
リ。夫レ輸出入ノ權衡時トシテ。或ハ昂低アルヲ  
免レスト雖氏其大ナルニ於テハ。決シテ其平均  
ヲ失フ一アル一ナシ。是ハ寒暑風潮等ハ時トシ  
テ。或ハ異變アルヲ免ハズト雖氏大ニシテ其平  
均ヲ失フ一ナク。必スヤ來往循環シテ其平均ヲ  
復シ。天然ノ規律ニ戻ラザル一ト同一理ナリ。然ハ

今體名家文抄卷三  
バ。則輸出入ノ差奈何シテ。其平均ヲ復スベキヤ。  
曰ク或ハ輸出ノ品額増加シ。或ハ輸入ノ數減少  
スルノ二道ノ外ナシ。抑我國近今ノ景況。開港後  
數年間ハ輸出ノ數。輸入ヨリ多ク。爾後三四年間  
輸入ノ數。輸出ヨリ多シ。又此後數年間思フニ又  
輸出ノ數。輸入ノ額ニ踰ユベシ。此ノ如輸出入ノ  
増減循環シテ止マズ。自然ノ天律其間ニ流行シ  
テ。決シテ其平均ヲ失ハトナシ。此ハ如クニシテ  
工藝從テ長シ。開化從テ進ムナリ。決シテ杞憂ヲ  
為スニ及バザルナリ。

人民ノ性質ヲ改造スル説

中村正直

戊辰以來御一新ト言フ。新トハ何ノ謂ソヤ。幕政  
ノ舊ヲ去リ。王政ノ新ヲ布ト云フ。トナルベシ。然  
ラバ政體ノ一新トイフマデニテ。人民ノ一新シ  
タルニ非ズ。政體ハ水ヲ盛レル器物ノ如シ。人民  
ハ水ノ如シ。圓器ニ入レバ圓トナリ。方器ニ入レ  
バ方トナル。器物變ジ形狀ハ換レ氏。水ノ質性ハ  
異ナルトナシ。戊辰以後ニ人民ヲ入レタル器物  
ハ。昔時ヨリ善キ形狀ナルベケレ氏。人民ハ矢張

此一段氣力アリ精神アリ文章上更ニ間然スル所ナシ然ニ言語上稍圭角アリ英氣アリ道徳ノ累ヲ為スニ足レリ況ニヤ教法ヲ以テ人ヲ訓導セシト欲スル論文中此ノ如クニシテ可ナランヤ

舊ハ人民ナリ。奴隸根情ハ人民ナリ。下ニ驕リ。上ニ媚ル人民ナリ。無學文盲ハ人民ナリ。酒色ヲ好ム人民ナリ。讀書ヲ好マザル人民ナリ。天理ヲ知ラズ。職分ヲ省リシガル人民ナリ。知識淺短。局量褊小ナル人民ナリ。勞苦ヲ厭ヒ。艱難ニ堪ザル人民ナリ。私智ヲ挾ミ。小慧ヲ行フ人民ナリ。勉強忍耐ハ性ナキ人民ナリ。浮薄輕躁。胸中主ナキ人民ナリ。自立ノ志ナクシテ。人ニ依頼スルヲ好ム人民ナリ。觀察思想ハ性ニ乏シキ人民ナリ。金錢ヲ用ウルヲ知ラザル人民ナリ。約諾ヲ破リ。信義ヲ

重シ。ゼザル人民ナリ。友愛ハ情ニ薄ク。合同一致シガタキ人民ナリ。新發明ハ事ヲ務メザル人民ナリ。以上ノ諸弊ヲ免カル。人民固ヨリ少ナシトセズト雖。凡押並テ大抵カクノ如シ。此人民ノ性質ヲ變シ。善良ナル心情高尚ナル品行ニ化セシメント欲セバ。惟政體ヲ改ムルノミニテハ。其功驗絶テ之無シ。只圓キモノガ六角トナリ。八角トナルバカリニテ。其中ノ水ノ質性ハ改タマラズ。故ニ政體ノ改タマルヨリハ。寧ロ人民性質ノ變ジテ。愈善ク舊染ヲ去リ。日ニ新タニシテ。又日

ニ新タナラトコソ望マシキナリ。方今民選議院  
ト云ト世ニ喧スシキトハ吉兆トシテ慶スベシ。  
蓋シ此議院興ルトキハ、日本國ヲ人民總體ニ有  
ク之ヲ守護スル心持ニ成ルベク、政府有司ニ依  
賴スルノ心改タマルベク、奴隸根性日ニ減ズベ  
ク、四方ヨリ人材輩出スルヲ得ベク、人材ヲ一方  
ヨリ選舉スル弊次第ニ息ムベキナレバ、民選議  
院ハ民心ヲ一新スルノ一助タルトハ、固ヨリ論  
ズルヲ待タズ。但シ茲ニ一ツノ着眼スベキモノ  
アリ、民選議院創立シ、之ニ由テ人民縱ヒ幾分ノ

政權ヲ上ヨリ分チ得タリトモ、矢張從來ノ人民  
ナレバ、政事ノ形體少シク變ズルマデノ事ニテ、  
人民ノ性質ヲ改造スル主要ノ功效ハアラザル  
トナリ。然ラバ人民ノ性質ヲ改造スルハ如何ト  
イフニ、其大分ニアルノミ、藝術ナリ、教法ナリ。此  
二者車ノ兩輪鳥ノ兩翼ノ如シ、互ニ相資助シテ、  
民生ヲ福祉ニ導ビクナリ。藝術ノミ高妙ノ域ニ  
進ミタリトモ、惟物質上ノ開化ニテハ、古埃及ビ  
希臘ノ時代ノ如ク、風俗ノ壞惡ヲ救正スル能ハ  
ズ。必ズヤ教法ノ盛ニ行ハル、モノアリ、藝術感

化ノ及バザル所ヲ助ク、斯テコソ人心ヲ一新ス  
ルノ道、具ハレリト云ベシ。是等ハ誰モ知リタル  
トニテ、高論奇談ニ非ズ。然レ氏學士先生ハ中ニ  
モ、藝術ハ之ニ注意シテ、教法ヲ以テ度外ニ置キ。  
或ハ西國ハ教法ヲ嫌ヒ、惡ムモ、ハアハ故ニ極メ  
テ平凡、極メテ尋常ナル說ヲ陳シテ、以テ高明ノ  
諸君子ニ就正ス。苟モ此ヲ外ニシテ、我國人民ヲ  
シテ、其性質ヲ改造セシメ、歐亞諸國ハ人民高等  
ハ度ト、平均ナラシムル方法アラバ、愚願クハ安  
シテ、教ヲ受ケン。

情實說

西 周

人木石ニシテ已マシカ。情實アリ何ゾ能ク然ル  
ヲ得ンヤ。然ラハ則情實ハ性ニ根カス者カ。是レ  
即仁徳ハ嫡子ニシテ、義理ハ從兄弟カ、婦人ハ仁  
ト云フ者、情實ハ假名カ。情實ハ男女モ之ヲ有ス  
何ソ、獨リ婦人ハミナラシヤ。情實ノ興ル其レ幕  
政ノ末世、維新ノ盛徳ニ當ルカ。賄賂ト妾トノ事  
ニ當ルカ。然ラハ則小人危険ナル者。真ニ情實ア  
ルカ、小人ハ表裏反覆、權ニ倭シ勢ニ投ス。何情實  
カ之アラン。然ラバ則姦雄人ヲ欺ク者。真ニ情實

仁徳嫡子云々造語甚妙

アルカ。姦雄猜忌殘忍。城郭極メテ深シ。何ノ情實  
カ之アラン。然ラハ則剛毅不屈ノ士。真ニ情實ア  
ルカ。外舉寇ヲ避ケス。内舉子ヲ避ケス。直言抗論  
何ノ情實カ之アラン。盖シ情實ハ東方君子國ノ  
風カ。舊友沈淪。我獨時ヲ得。則其不才ト雖氏之ヲ  
撰舉セザルヲ得ズ。彼私事ニ因テ我ニ德アリ。我  
公選ニ於テ彼ヲ推サザルヲ得ズ。舊友ノ子弟。因  
縁攀援座主ト稱シ門下生ト唱ス。疇昔ヲ追懷ス  
レバ。我之ヲ顧リミザルヲ得ス。俸門權貴ニ聞ケ  
託依下僚ニ委ス。我其不肖ヲ知ルト雖氏。狂テ之

ヲ取ラザルヲ得ズ。忠慤能無ク。寒窶依ル無シ。家  
族ノ關係ヲ陳シテ。小官ノ補除ヲ請求ス。我情ニ  
於テ憫然ナラザルヲ得ス。妻妾請托ヲ受ケ。閨閣  
端緒ヲ起ス。我其汚タルヲ知ルモ。之カ所ヲ為サ  
ザルヲ得ズ。凡此類皆情實ノ謂カ。曰ク情實是ヨ、  
リ甚シキ者アリ。我彼ト情實アリ。彼此ト情實ア  
リ。此某ト情實アリ。其相好スルヤ。情實ヲ以テシ  
其相惡ムヤ。亦情實ヲ以テス。情實ヲ以テ。經緯組  
織シ。竟ニ外人ヨリ之ヲ見ルハ。條理ナキ者ニ  
似タリ。唯其内部ニ居リ。臍腑ニ入り。始テ其氣脈



此篇能々日  
官達交際ノ  
情態景況ヲ  
有破奇語  
奇句ヲ以テ奇  
思奇想ヲ發  
出ス此等ノ消  
息亦言フニ言  
ハレ又面白味  
アリ奇文ト稱  
ス

連絡ハ跡一々亦條理アルヲ知ルベシ之ヲ名ケ  
テ言フニ言ハレ又情實ト謂フ西子曰ク情實ノ  
字義遠ニ之ヲ見レバ薄情ノ反體ノ如シ然レ氏  
審ニ之ヲ論ズレバ即チ公義ノ反體ナリ  
煉化石造ノ説  
西  
余曾テ歐洲ニ遊テ煉化石造ノ家屋ヲ見ル其高  
キヤ五層六層其廣キヤ二町三町而シテ堅牢固  
結搖カス可ラズ撓マズ可ラズ蘇然タル一片ハ  
石壁四合スル者ハ如シ近日我新橋以北ノ街區  
亦此法ヲ用ユ其堅牢固結彼ニ如カザル者アリ

嗚呼一句轉折  
以下正論混合  
文極緻密理  
極深遠

石室ヲ以テ  
邦國ニ譬ヘ  
煉化石ヲ以テ  
人民ニ譬ヘ  
石匠ヲ以テ  
官吏ニ譬フ  
柳々州梓人  
傳ト同ニ夫

ト雖氏亦觀ルベキアリ嗚呼何ゾ匠氏ノ巧ニシ  
テ獨リ柄政者ノ是ニ類セザルヤ夫レ火石ハ其  
質堅緻ニシテ其形方正ナル者ナリ火石能ク堅  
緻能ク方正撓マズ曲ラズ而シテ匠氏能ク之ヲ  
用井正ニ其堅緻ト方正トヲ利シ累々層々以テ  
其高大ヲ致ス今苟モ匠氏ノ石ヲ製スル其質堅  
緻ナラズ其形方正ナラズ惟彼ノ石灰ノ力ヲ恃  
ミ強壓力逼シテ以テ其累々層々ヲナサント欲  
セバ其石盪磨跳轉正角漫磨シ廉稜消毀シ變ジ  
テ將ニ團々ナル者トナラントス則匠氏亦何ヲ

此段孟子巨室ヲ為ス必工師ヲシテ大木ヲ求メシノシノ章ヲ學ニテ絶テ其ノ繫踏ノ跡ヲ見ズ

恃ミテ彼ノ高堂大厦ヲ構スルヲ望マンヤ。今有司ニシテ、其下ニ遇スル、強壓力逼、以テ各個人々ノ權分ヲ虧損ス、則人々己カ權分ヲ存保スルヲ能ハズ、遂ニ變シテ圓轉流活、以テ俗ヲナスニ至ラントス、苟モ圓轉流活、一タビ俗ヲナスニ至レバ、剛毅強直ナル者アリト雖モ、亦碌々世ト相推移セザルヲ得ス、猶數十方正石ノ彼ノ團々ナル者ト相盪磨スルカ如シ、幾何カ其レ其廉角ヲ存スルヲ得ンヤ、況ヤ有司ハ人ヲ遇スル其權分ヲ劇損シ、且姑ク我が意ニ隨テ汝が方正ヲ枉

ケヨト云ハ、猶匠氏ハ石ハ方正ヲ利セズ、擅ニ槌斷斧斫シテ、以テ其用ニ適セントスルガ如シ、亦焉カ其槌斷斧斫ハ處、異日壞崩滅裂ハ地タルニ非ザルヲ知ラシヤ、夫レ堅緻方正ハ火石ノ性ナリ、人民ノ權分ヲ守ルハ、亦人ノ性ナリ、今苟モ一旦其性ヲ變ジ、石ヲシテ團々ナラシメ人ヲシテ圓活ナラシメハ、匠氏其巧ヲ盡シ、柄政者其能ヲ窮ニト雖氏、亦將ニ其力ヲ施スノ地亡カラントス、今夫レ數丈ノ壁間、一個ノ火石脆疎ニシテ、窳脱スレバ、餘石ノ堅緻ナル者、亦從テ墮ツ、則支

離滅裂。亦壁ノ一面ニ及バントス。故ニ匠氏ハ一石ノ質ヲ輕ンゼズ。柄政者ハ匹夫ノ權ヲ慢ラズ。以テ能ク其功ヲ成ス。況ヤ本邦ノ如キ。火石素ヨリ脆疎ニシテ。人民ノ權分殊ニ薄弱ナルヲヤ。維新ノ初。制度簡疎。人々頗ル振フノ氣アリ。今日ニ至リ。文恬武熙。萎靡復風ヲ成ス。況ヤ百度更張シ。節目頗ル備ハル。從テ強壓力逼ノ蔽生セザルヲ得ズ。煉火石造ノ説ヲ作ル。

人ニ貴賤貧富ノ別ナキ説

福澤諭吉

千古名言造  
物者ノ本意  
ヲ得ルニ云シ

天ハ人ノ上ニ人ヲ造ラズ。人ノ下ニ人ヲ造ラズ。トイヘリ。左レバ天ヨリ人ヲ生ズルニハ。萬人ハ萬人皆同ジ位ニシテ。生レナガラ貴賤上下ノ差別ナク。萬物ノ靈タル身ト心トノ働ヲ以テ。天地ノ間ニアル萬ノ物ヲ資リ。以テ衣食住ノ用ヲ達シ。自由自在。互ニ人ノ妨ヲナサズシテ。各安樂ニ此世ヲ渡ラシメ給フノ趣意ナリ。左レドモ今廣ク此人間世界ヲ見渡スニ。賢キ人アリ。愚ナル人アリ。貧シキモアリ。富メルモアリ。貴人モアリ。下人モアリテ。其有様雲ト坭トノ相違アルニ似タ

達ク聖經賢傳ヲ引カズ近クイロハカルタヲ引キ實語教等ヲ引ク乃先生ノ先生タル所以ニシテ余ノ尤心服スル所以ナリ

ルハ何ゾヤ、其次第甚々明ナリ、實語教ニ人學バザレバ智ナシ、智ナキ者ハ愚人ナリトアリ、左レバ賢人ト愚人トノ別ハ、學ブト學バザルトニ由テ出来ルモノナリ、又世ノ中ニムヅカシキ仕事ヲモアリ、ヤスキ仕事モアリ、其ムヅカシキ仕事ヲスル者ヲ、身分重キ人ト名ヅケ、ヤスキ仕事ヲスル者ヲ、身分輕キ人トイフ、都テ心ヲ用井心配スル仕事ハムヅカシクシテ、手足ヲ用ルカ役ハヤスシ、故ニ醫者、學者、政府ノ役人、又ハ大ナル商賣ヲスル町人、夥多ノ奉公人ヲ召使フ大百姓ナド

學者未タ必ク貴人富人トナラズ、貴人富人未ダ必ク學者トナリ

ハ、身分重クシテ貴キ者トイフベシ、身分重クシテ貴ケレバ、自カラ其家モ富テ下々ノ者ヨリ見レバ、及ブベカラザル様ナレドモ、其本ヲ尋レバ唯其人ニ學問ノカアルトナキトニ由テ、其相違モ出来タルノミニテ、天ヨリ定タル約束ニアラズ、諺ニ云ク、天ハ富貴ヲ人ニ與ヘズシテ、之ヲ其人ノ勤ニ與ルモノナリト、左レバ前ニモ云ヘル通り、人ハ生レナガラニシテ、貴賤貧富ノ別ナシ、唯學問ヲ勤テ物事ヲ能ク知ルモノハ貴人トナリ、富人トナリ、無學ナル者ハ貧人トナリ、下人ト

ヲ勤ク事ヲ  
能ク知ル人ナ  
ラ。今日ノ貴  
人ヲ見ヨ今日ノ  
華族ヲ見ヨ歎  
息々々

ナルナリ。

開化ノ進ムハ政府ニ因ラズ人民ノ衆論ニ  
因ルノ説譯バツクル氏ノ英國開化史ヨリ抄

箕作麟祥

歐洲各國開化ノ進歩ハ論者徃々政府ノ智ヲ以  
テ新ニ法律ヲ制シ、弊害ヲ除クニ因ルト言ヒ、其  
説ヲ主張スル者多シト雖氏、今史乘ヲ讀ミ、詳カ  
ニ之ヲ考フレハ、此等ノ説ハ畢竟無稽ノ妄言ニ  
屬シ、信據ス可キニ非サルナリ、何トナレハ、凡ソ  
國家ノ要路ニ居リ、權ヲ執リ政ニ任スル輩ノ如

近世世界人  
物中華聖頓  
那破烈翁二  
人ヲ除ク外  
此世ヲ造ル  
ト云ベカラス

キ、抑亦何人ゾヤ、要スルニ皆其國ニ生レ其書ヲ  
讀ミ、其習慣ニ染ミ、其偏見ニ狃レ、其範圍中ニ局  
束セラル、人タルニ過ギザレバ、如何ニ警敏銳  
材ノ名アリト雖氏、顧ミルニ亦此世ノ為ニ造ラ  
レシ者ニシテ、此世ヲ造リシ者ニ非ズ、故ニ其人  
ノ事業タルモ、亦唯開化進歩ノ末ニ居リ、其本原  
ヲ為スニ足ラス、而シテ此ニ之レガ証ヲ舉グル  
ニ、凡ソ今古ノ史乘ニ載スル各國ノ大改革ヲ見  
ル、未タ一モ當時執權輩ノ創起首唱ニ因ル者ア  
ラズ、舉テ皆其國人民ノ衆論ニ迫ラレ、已ムヲ得

今體名家文抄卷三  
ザルニ出ツルニ在レバ、以テ言ノ誣ヒサルヲ知  
ル可ク、因テ更大ニ之ヲ論ゼントス。夫レ國ニ弊  
害アルヤ、當初或ハ有識ノ士アリ、衆ニ先チ、恐レ  
ス諱マズ、其弊害ヲ除キ、改革ヲ為スノ急務タル  
ヲ論スト雖、政府ハ敢テ之ヲ聽カズ、依然其舊  
弊ニ安シテ、數十百年ノ久キヲ過キ、衆論沸騰、真  
ニ其已ム可カラザルニ及ビ、然ル後ニ初メテ之  
レカ改革ヲ為スハ、獨リ冥頑不靈ノ政府ノミ以  
テ然リト為スニ非ズ、廣詢咨謀、周ク之ヲ衆ニ取  
リ、以テ其言ヲ容ル、文明諸國ノ政府ト雖、尚

ホ亦然ラザルハナシ、故ニ彼ノ改革ヲ為シ、國ヲ  
益スルニ誇ル執推輩ト雖、多クハ皆其生ル、  
時、既ニ數十年ノ前ニ生ル、成論ヲ取テ、之ヲ傳  
誦シ、其事業タルモ、槩ネ亦教ヲ先師ニ受ケ、其示  
授セシ成訓ニ因テ更ニ其聲ヲ大ニシ、嘖々之ヲ  
辨明スルニ過キズ、而シテ又國ノ改革者タルヲ  
其身ニ自負スル輩ノ如キハ、畢竟當時輿論衆議  
ノ已ム可カラザルヲ知り、以テ之ヲ行フニ在リ、  
譬バ、猶積水ハ潰決シ、其勢ハ禦ク可カラザルニ  
至リ、流ニ順テ泛然浮游スル者ハ如シ、然リ而シ

テ唯其改革者ノ稱譽ス可キハ、當時特ニ缺ク可  
カラザル事由ノ既ニ瞭如タル國家重要ノ改革  
ニ、猶抗拒スル者多キニ當リ、危険ヲ辭セズ、機ヲ  
見テ斷然衆論ヲ容レ、之ヲ實際ニ行フニ在ルノ  
ミ、而シテ今此ニ其例ヲ求ムレバ、各國古今ノ史  
乘中、固ヨリ枚擧スルニ遑アラスト雖、試ニ其  
最モ著ルシキ者ヲ擧ゲテ之ヲ言ハシ、近來英國  
ニ於テ、彼ノコルンロウ穀物ノ價自國ニ於テ貴  
キ時ニ非レバ外國ヨリ  
之ヲ輸入スルヲ廢セシガ如キハ、目今英國ノ人  
民、普ク其益ヲ知り、敢テ異議スル者アラザレ、  
氏。

之レガ改革ヲ為スニ及ビシ其方法ニ至テハ、人  
猶未ダ明ニ之ヲ解セズ、而シテ世ノ史乘ヲ詳讀  
セザル者ハ、必ズ將ニ言ハントス、曰ク此改革ハ  
全ク議院ノ力ニ出テ、或ハアンチ、コルン、ロウ、リ  
ー、グ、ル、コ、ル、ン、ロ、ウ、ノ、主、張、セ、シ、法、ヲ、廢、ス、社、中、ノ、力、ニ、因、ル、ト、  
然レ、氏仔細ニ此改革ノ緣由ヲ講究スレバ、蓋シ  
此改革ハ初メ端ヲ千七百年代ニ發シ、穀物輸入  
ヲ限制スル其法ノ弊害ハ當時ニ在テ經濟學者  
既ニ專ラ之ヲ辨論シ、爾來其書ヲ讀ム者、皆其論  
ノ正久、其言ノ是ナルヲ許認セザルナキニ因レ

文佳ヲ求メ  
ルシテ自ラ佳  
此是ナリ

バ。顧ミルニ政府議院社中ハ如キハ畢竟至強至  
大ハ抗拒ス可カラサル。國內衆論ハ勢カニ旋轉  
移動セラレタル器械ニ等ク。故ニ其コルムロウ  
ヲ廢スルハ。曾テ此黨ニ便スルガ為ニ非ズ。又彼  
ハ黨ニ益スルガ為ニ非ズ。國民ハ智識ニ因リ。以  
テ致ス所ナレバ。人智ノ漸ニ進ムニ從ヒ。此法ハ  
終ニ廢ス可キハ。固ト自然ノ勢ニ屬シ。當時社中  
ハ其智識ヲ擴ムルハ功ナキニ非ズ。議院ハ其智  
識ヲ容レ。之ニ順フハ功ナキニ非ズト雖也。要ス  
ルニ其功ハ人民智識ハ進ムニ因リ。已ム可カラ

結末重テ題  
言ヲ襲用ス  
是古文多ク  
之アル法ニシ  
テ韓非最モ  
多シ少年輩  
能ク此法ヲ  
用弁ハ言論  
支離ノ病ナク  
論理明白ノ  
譽ヲ博セン  
神田先生民  
選議院時未  
ク至ラザル

ザルニ及ヒシ。改革ヲ僅カニ一歩早カラシメシ  
ニ過キズ。而シテ又近年行ハレシ。レフヲルムビ  
ル議員選舉ノ制度及ヒ其他ノ改革ノ如キモ亦  
皆前ニ論ズル所ト。敢テ異ナル者アルニ非ズ。故  
ニ曰ク國ハ舊弊ヲ洗滌シ。以テ開化ヲ進マシム  
ルハ。政府ハ力ニ非ズ。人民ハ衆論ニ因ル者ナリ。



文法併七見  
ル可シ

今體名家文抄卷之三

今體名家文抄卷之三終

Table with 10 vertical columns and 10 horizontal rows. The text within the table is extremely faint and illegible.

終

